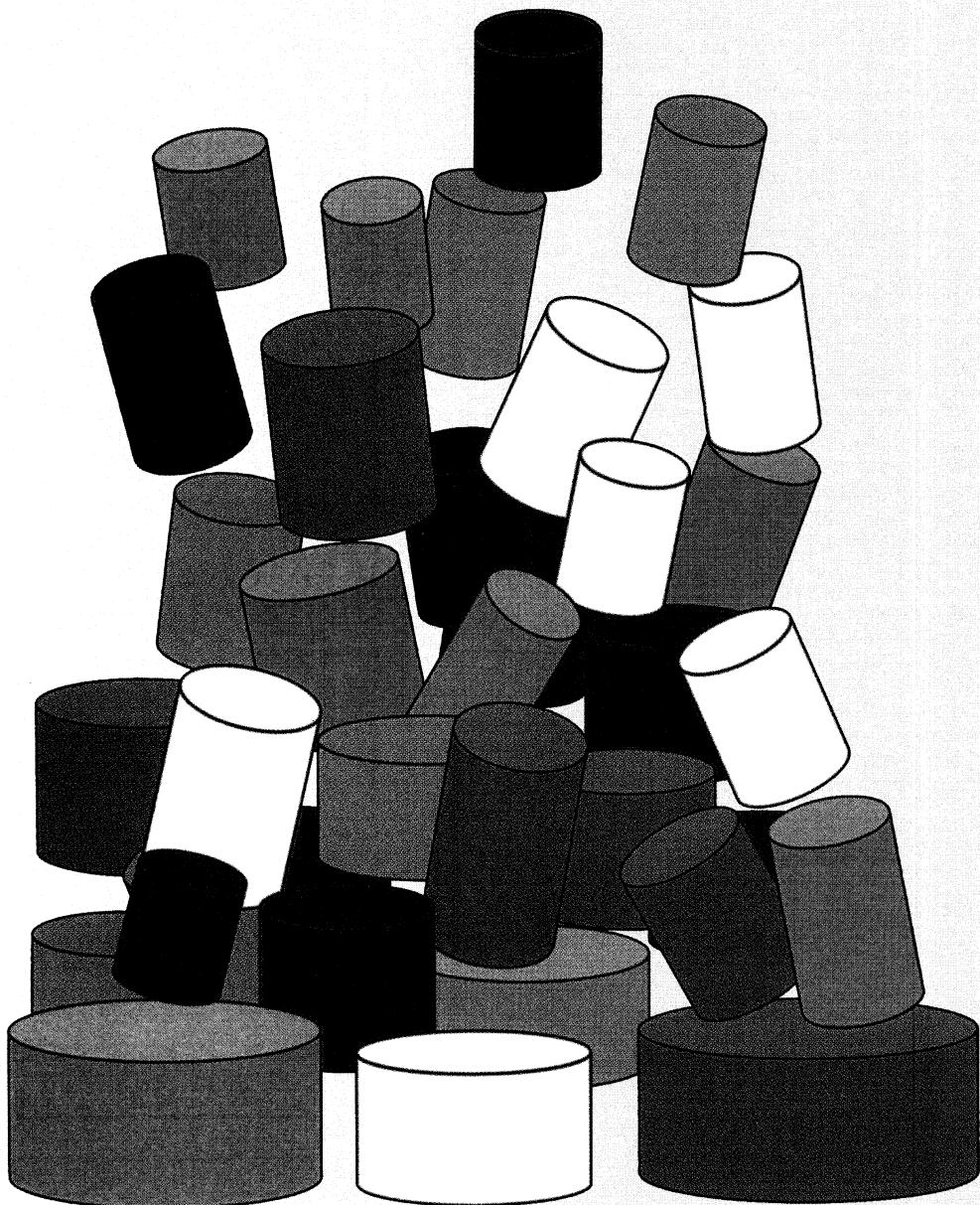


学校改善支援プラン

— 質の高い学力を求めて —



平成20年12月

京都府教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	京都府における調査結果の概要	2
III	学校に期待すること—提言の具現化ー	4
IV	京都府における国語の状況と改善のポイント	
1	小学校国語の概要	8
2	中学校国語の概要	9
3	国語の授業改善に向けて	14
4	国語の授業改善の提言	15
5	質問紙調査から見える国語の課題	22
V	京都府における算数・数学の状況と改善のポイント	
1	小学校算数の概要	26
2	中学校数学の概要	27
3	算数・数学の授業改善に向けて	32
4	算数・数学の授業改善の提言	33
5	質問紙調査から見える算数・数学の課題	40
VI	児童・生徒の学習環境・生活習慣	
1	質問紙から見える課題と改善の方策	44
2	資料の見方	45
3	質問紙調査の結果	
①	学習に対する関心・意欲・態度	46
②	学習習慣	47
③	基本的生活習慣	48
④	家族でのコミュニケーション	50
⑤	自尊意識	51
VII	資料編	
1	提言—質の高い学力を求めて—	54
2	京都府が実施している主な学力充実・向上施策	58
3	本年度の取組概要	58

I はじめに

京都府教育庁指導部学校教育課長 桐村幸雄

本年4月22日、「平成20年度全国学力・学習状況調査」が、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童・生徒を対象に実施されました。8月には、京都府における結果の概要を公表し、「小学校では、全国水準をはるかに上回り、中学校においてもほぼ全国水準を維持している」といった府内の児童生徒の学力状況をお示したところあります。昨年に続き、このような結果を得ましたことは、各市町村教育委員会並びに各学校が児童生徒一人一人の学力向上のために、たゆまぬ御努力を重ねていただいている証であると存じ敬意を表する次第です。

昨年度は、「京の学力向上検討委員会」において、京都府の学力や学習状況について分析され、国語や算数・数学における京都府の状況と授業改善に向けてのポイント及び児童・生徒の学習習慣や生活習慣に関する課題と改善方策などについて提言をいただきました。

本年度は、京都府教育委員会において、新しい学習指導要領を踏まえ全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「学校改善支援プランー質の高い学力を求めてー」を作成しました。今回は、「学校の取組」について焦点化し、第1に「学校に期待すること」としてP D C Aサイクルに簡潔にまとめたこと、第2に各校種教科毎の設問別調査結果を掲載してどのような場面でつまずきがあるのかを明らかにし、指導方法の工夫・改善に役立てていただけるよう編集したこと、第3に重要な学力要素である学習意欲について、各教科ごとに「質問紙から見える課題」として改善の視点を明らかにしたことが特徴です。

各市町村教育委員会並びに各学校におかれましては、京都府総合教育センターが開発した「分析ソフト」などを活用し、本資料に示す京都府の状況や分析結果も踏まえながら、自らの地域や学校の実態及び児童生徒一人一人の学力や学習状況を十分把握分析していただきますようお願いいたします。そして、本調査結果から明らかになったそれぞれの成果や課題、更に、学力充実方策等について、保護者や地域のみなさまと情報を共有していただきなど、地域社会総がかりで児童生徒の学力向上の取組が一層進みますよう願っている次第です。

結びに当たり、本資料の作成に御協力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成20年12月

II 京都府における調査結果の概要

1 実施概要

- (1) 実施日 平成20年4月22日(火)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科等 ①教科に関する調査
· 主として「知識」に関する問題(国語A、算数・数学A)
· 主として「活用」に関する問題(国語B、算数・数学B)
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
· 児童生徒に対する調査 · 学校に対する調査
- (4) 実施学校・参加児童生徒数(4/22実施分)

小学校	対象学校数	学校数(実施率)	児童数
全国 公立学校	21,718校	21,685校	99.8% 1,147,633人
京都府 公立学校	427校	427校	100% 22,364人

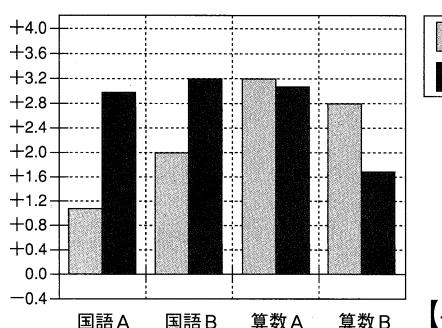
中学校	対象学校数	学校数(実施率)	生徒数
全国 公立学校	10,191校	10,120校	99.3% 1,030,521人
京都府 公立学校	179校	173校	96.6% 18,307人

2 教科に関する調査の実施結果(京都市を含む。)

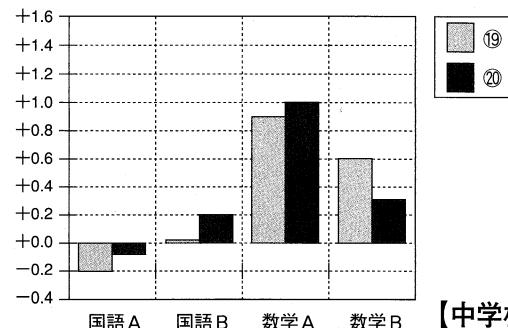
- (1) 平均正答率の状況 (数値は平均正答率)

教科等	国語				算数・数学			
	A「知識」		B「活用」		A「知識」		B「活用」	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
小学校 (昨年度)	68.4 (82.8)	65.4 (81.7)	53.7 (64.0)	50.5 (62.0)	75.3 (85.3)	72.2 (82.1)	53.3 (66.4)	51.6 (63.6)
中学校 (昨年度)	73.5 (81.4)	73.6 (81.6)	61.0 (72.0)	60.8 (72.0)	64.1 (72.8)	63.1 (71.9)	49.5 (61.2)	49.2 (60.6)

<全国との比較> ※全国の平均正答率を0とした場合の京都府の状況



【小学校】



【中学校】

※数値についてはどれも8月公表時の資料に基づいています。

(2) 概況

今回のテストで測定できる学力は、特定の一部分ではあるが、結果を平均正答率や正答数分布などで見ると、京都府内の児童生徒の学力は、小学校では、全国水準をはるかに上回っている。中学校についても、ほぼ全国水準を維持している。従って、京都府の児童生徒の学力は、昨年度に引き続き、全国水準を超えていている。

なお、全体的に19年度に比べ平均正答率が下がっている点について、文部科学省によると、「児童生徒の課題を鮮明にしよりきめ細かく把握するため、問題をやや難しい内容としたことが理由」としている。

<校種・教科別>

- 小学校においては、すべての教科や問題種別で全国水準をはるかに超えており、特に国語で昨年より大きく改善している。
- 中学校においては、国語については全国とほぼ同程度の状況で、数学では全国水準をやや上回り、全国水準を維持している。

<問題種別>

- 「知識」に関する問題については、小学校においては、国語で問題が難化したこともある定着に一部課題が見られるが、算数においては、基礎的・基本的な内容をおおむね身に付けている。中学校においては、国語・数学ともに更に身に付けさせる必要がある。
- 「活用」に関する問題については、すべての校種・教科ともに知識・技能を活用する力に課題が見られ、更に改善する必要がある。これらの問題種別に見られる傾向は、国全体の結果と同様の傾向である。

3 質問紙調査の結果

- 児童生徒質問紙調査においては、おおむね各項目とも全国及び昨年度と同様の傾向が見られる。
- 昨年度課題となっていた「朝食を毎日とる習慣」については、小学校・中学校ともに19年度と比べ若干の改善傾向が見られた。
- 同じく「家庭でのコミュニケーション」についても、小学校・中学校とともに若干の改善傾向が見られた。

4 その他

本資料に掲載したデータは、京都府内すべて（京都市域を含む）の受検対象児童生徒の結果であり、分析もこのデータを基に行っている。

なお、当日実施できなかった学校は、後日実施したがデータには算入されていない。

III 学校に期待することー提言の具現化ー

平成19年度版「学校改善支援プラン『質の高い学力を求めて』」においては、分析とともに改善に向けての「提言」（資料編参照）を示しているが、平成20年度版においては、その中の「4 学校の取組」について焦点化し、「学校に期待すること」としてP D C Aサイクルに簡潔にまとめた。

ま
ず、くわしい

C
CHECK

それから

A
ACTION
↓

P
PLAN
↓

D
DO

再び

C
CHECK

1 全体状況を理解すること

- ・調査問題はどのような趣旨・内容だったのだろう。
- ・京都府や自分の市町村・学校は全国状況の中ではどうだったのだろう。

2 分析データを作成すること

- ・学校改善支援プラン（データ）の自校版を作ってみよう。
- ・結果分析ツール（総合教育センター作成）を活用しよう。

3 自校の姿をリアルにとらえること

- ・「強み」と「弱み」を明らかにしよう。
- ・本校だけの傾向なのか、地域全体の傾向なのか。
- ・当該学年だけの傾向なのか、昨年もそうなのか。
- ・当該教科だけの傾向なのか、他教科もそうなのか。

4 得られた情報を全職員で共通理解すること

- ・さまざまなミーティングを持とう。
- ・多様な分析・解釈・考察を交流しよう。

5 アクションプランにまとめること

- ・「付けたい力」と「具体策」の両面から考えよう。
- ・「すぐにできること」と「年次計画で取り組むこと」を整理しよう。
- ・保護者や地域と連携できることを探ろう。

6 取組の効果を検証すること

- ・定量的な把握（数値）と定性的な把握（エピソード等）の両面で成果と課題を把握しよう。
- ・効果的な取組を洗い出しポイントを明らかにしよう。
- ・「効果のある指導」をみんなのものにしよう。

左ページのP D C Aサイクルに沿って、検証改善の取組を進める際の具体例や、分析・考察の着眼点を例示した。
(※各学校における学力の充実・向上の取組が進むための参考例)



- 平均正答率で比較すると全国を超えていいるけれど、分布図を見ると下位の所に一定数の子どもたちがいるので、ここに焦点化した改善が必要だな。
- B問題（主として「活用」に関する問題）の正答状況は、ひじょうにはらつきが大きいので、授業に一工夫加えないといけないな。

- 校内検証改善委員会を設置し、早急に自校のデータを整理・分析し、職員で共通理解することが必要だな。
- 総合教育センターの分析ツールを使うと、去年1週間ほどかかった作業が1時間で完了できたよ。

- 普段の授業も重点をおいて指導してきたことだけれど、全国共通の課題だったんだな。
- 大丈夫と思っていた問題が、全国状況の中で見ると意外ときびしいな。
- B問題で本校は意外に良い結果になっているけれど、校内研究で重点にしてきたノート指導に効果があったのかも知れないな。

- 提案された考察では触れていないけれど、本校の強み（弱み）はこういう点にもあるのではないか。
- 質問紙（学習環境や生活習慣）もあわせて考えてみると、本校の子どもたちの生活面の課題が、学力形成に関連しているのではないか。

- 具体的なプランの検討に入る前に、学習指導要領を読み直してどんな力を子どもたちに付けたいのか、共通理解しておこう。
- 今の本校の実情からすれば少しハードルが高い改善策なので、工程表を作って段階的に取り組んだらどうかな。
- 生活習慣は家庭との連携が大事なので、学年PTAの話題にしよう。

- 各授業の一工夫や学力向上の知恵を交流して、特徴のある取組をケーススタディとして全員で共通理解してはどうかな。
- 思考力・判断力・表現力の育ちの見られる子どもの発言（ノート・作文）を拾い出して、「質の高い学力」を具体化するのもいいね。

各校での取組をスタート!!

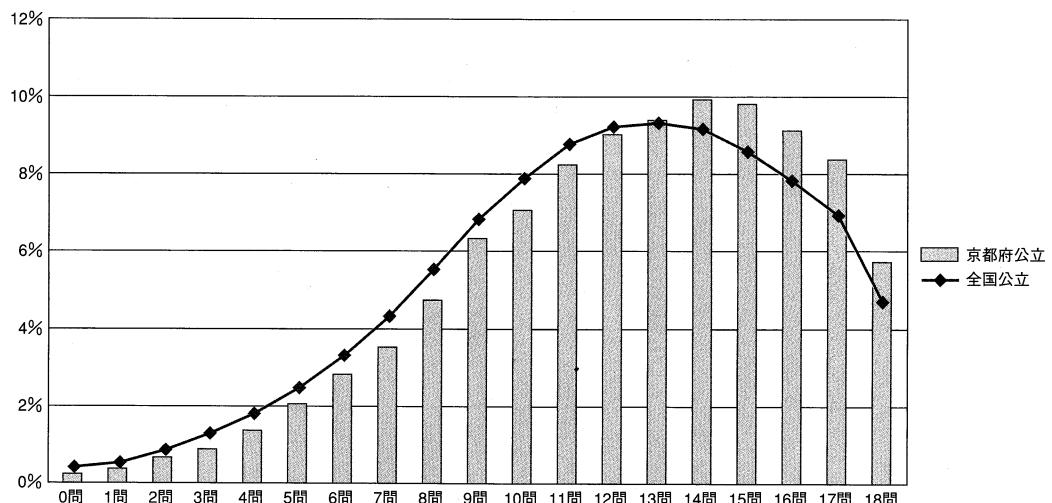
IV 京都府における国語の状況 と改善のポイント

1 小学校国語の概要

- 国語A（知識）については、平均正答率が68.4%であり、今回出題されている学習内容の定着に一部課題が見られるが、全国平均を昨年以上に上回っており、学習状況の改善が見られる。
- 国語B（活用）については、平均正答率が53.7%であり、知識・技能を活用する力に課題が見られるが、全国平均を昨年以上に上回っており、学習状況の改善が見られる。

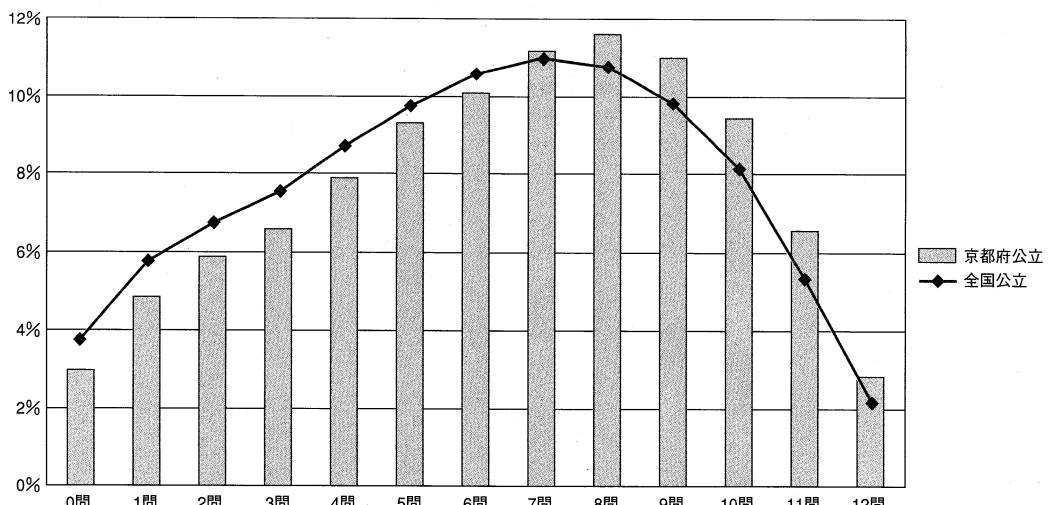
○国語A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	22,357	12.3／18	68.4	13.0	3.8
全 国	1,147,582	11.8／18	65.4	12.0	4.0



○国語B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	22,355	6.4／12	53.7	7.0	3.1
全 国	1,147,406	6.1／12	50.5	6.0	3.1

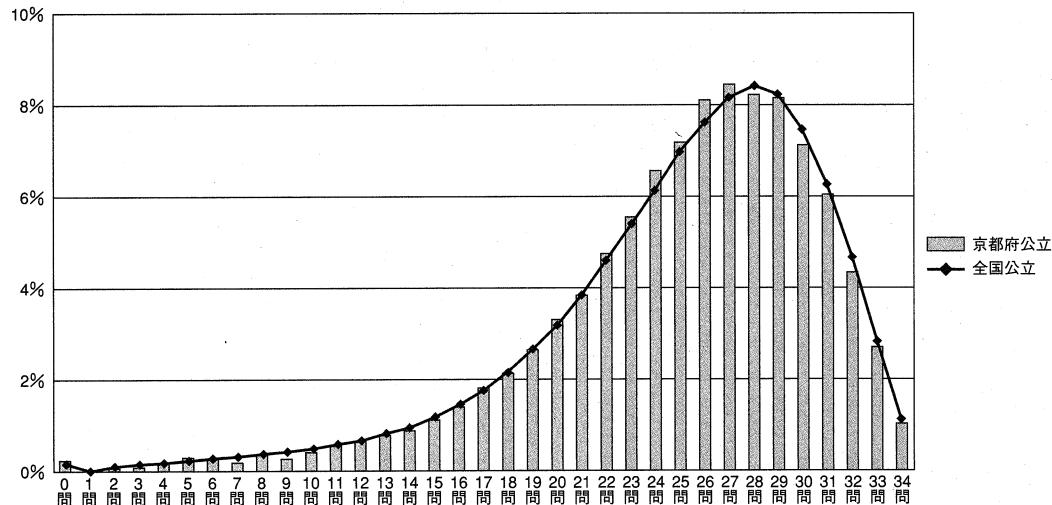


2 中学校国語の概要

- 国語A（知識）については、平均正答率が73.5%であり、今回出題されている学習内容について更に定着を図る必要があるが、全国平均と同程度であり、全国的な学力水準を維持している。
- 国語B（活用）については、平均正答率が61.0%であり、全国平均とほぼ同程度であるが、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

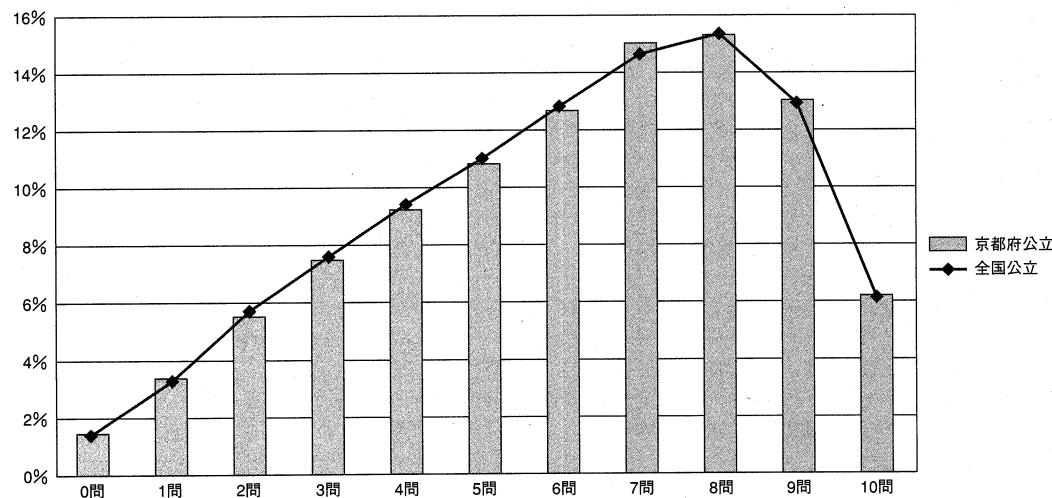
○国語A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,255	25.0／34	73.5	26.0	5.7
全 国	1,029,961	25.0／34	73.6	26.0	5.8



○国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,286	6.1／10	61.0	6.0	2.5
全 国	1,030,260	6.1／10	60.8	6.0	2.5



平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [国語A：主として知識]
京都府一児童（公立）

小学校 [国語A]

集計結果

	児童数	学校数	平均正答率	(20)差	(19)差
京都府(公立)	22,357	427	68.4		
全 国(公立)	1,147,582	21,684	65.4	3.0	1.1

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	(20)差	(19)差
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	79.2	76.1	3.1	▲0.2
	書くこと	56.1	53.3	2.8	1.9
	読むこと	49.7	44.5	5.2	1.7
	言語事項	68.0	65.2	2.8	1.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	70.5	66.8	3.7	2.2
	話す・聞く能力	79.2	76.1	3.1	▲0.2
	書く能力	55.8	53.3	2.5	1.9
	読む能力	49.7	44.5	5.2	1.7
問題形式	言語についての知識・理解・技能	69.9	67.5	2.4	1.2
	選択式	58.2	55.7	2.5	0.7
	短答式	72.3	69.2	3.1	1.7
	記述式				

◇ どの領域も全国平均を上回っているが、「読むこと」は、やや難しい問題内容であったことから、5割に満たない状況であった。ただし、府の平均は、全国を5ポイント以上、上回っており、この領域での改善が進んでいる状況がうかがえる。

◇ 「話すこと・聞くこと」は、昨年度、全国平均を僅かに下回ったが、今年度は、3ポイント程度上回り、この領域での改善が進んでいる状況が見られる。

◆ 「書くこと」は、全国平均を上回っているものの、平均正答率は、6割を下回る状況で、基礎的・基本的な学習内容が十分定着しているとはいえない状況にある。

◆ 「書くこと」では、小見出しを書く設問が高い正答率だが、推敲については33.6%と低い結果である。言葉の使い方を意識して書くことについて課題がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1-(1)	漢字を読む(自然を保護する)	98.8	98.1	0.7	0.3	0.5	0.2
1-(2)	漢字を読む(全員がすぐに承知した)	89.8	89.1	0.7	4.0	4.4	0.4
1-(3)	漢字を読む(水が勢いよく流れる)	77.2	76.3	0.9	0.9	1.5	0.6
1二(1)	漢字を書く(ボールをなげる)	86.8	82.6	4.2	4.9	8.5	3.6
1二(2)	漢字を書く(かぜをよぼうする)	67.5	63.0	4.5	13.5	17.2	3.7
1二(3)	漢字を書く(駅まで歩いておうふくする)	70.2	64.4	5.8	5.9	8.6	2.7
2-(1)ア	漢字を書く(同音異義語:会場)	61.1	58.1	3.0	18.2	21.4	3.2
2-(1)ウ	漢字を書く(同音異義語:開場)	39.9	36.8	3.1	16.2	18.7	2.5
2-(2)	正しい漢字を選択する(同音異義語:開場)	65.5	64.8	0.7	6.2	6.5	0.3
2二	漢字を書く(同訓異義語:かえり)	91.7	90.1	1.6	4.1	5.2	1.1
3	文章を読み返して、書き直したほうがよい理由と方法を選択する	33.6	33.7	▲0.1	1.3	1.9	0.6
4	似た意味の言葉の使い分けとして適切な説明を選択する	57.0	53.1	3.9	1.0	1.3	0.3
5	スピーチの内容に即して、カードを並べかえる	80.7	78.2	2.5	0.7	0.9	0.2
6	下書きの文章と発表原稿とを比べ、工夫したところを書く	77.6	74.1	3.5	7.9	10.5	2.6
7	グラフから分かったことをメモに取る	52.3	47.5	4.8	8.1	10.9	2.8
8	学校を紹介する文章に、適切な小見出しを書く	81.5	78.7	2.8	10.2	13.5	3.3
9一	文章中の表現について言い換えた部分を抜き出す	45.2	40.6	4.6	31.3	37.4	6.1
9二	筆者が伝えたかったこととして適切な内容を選択する	54.3	48.5	5.8	21.0	27.9	6.9

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [国語B: 主として活用]
京都府一児童(公立)

小学校 [国語B]

集計結果

	児童数	学校数	平均正答率	(20)差	(19)差
京都府(公立)	22,355	427	53.7		
全 国(公立)	1,147,406	21,678	50.5	3.2	2.0

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	(20)差	(19)差
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	77.5	73.0	4.5	2.3
	書くこと	52.4	49.1	3.3	1.7
	読むこと	51.3	48.3	3.0	2.0
	言語事項				
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	52.8	49.6	3.2	2.4
	話す・聞く能力	77.5	73.0	4.5	2.3
	書く能力	45.4	42.2	3.2	1.7
	読む能力	51.3	48.6	2.7	2.0
	言語についての知識・理解・技能				
問題形式	選択式	51.5	47.5	4.0	1.0
	短答式	53.6	51.0	2.6	2.5
	記述式	54.6	51.3	3.3	2.1

◆ どの領域も全国平均を上回っている。特に「話すこと・聞くこと」は、全国平均を大きく上回っており、「話すこと・聞くこと」に係る活用する力についての改善が進んでいる状況がうかがえる。

◆ 「読むこと」及び「書くこと」の正答率は、5割を僅かに上回る程度であり、引き続き課題があるが、昨年度以上の開きで全国平均を越えており、改善が進んでいる状況がうかがえる。

◆ 課題別に見ると、グラフから読み取ったことを基に自分の考えを書く設問の正答率が低く、書く力に加え自分の考えを持つために情報を読み取る力に課題がある。

◆ 記述式問題の中には、無解答率の高い問題が見られ、条件に即して書く力に課題がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1一	インタビューの仕方や内容について評価した理由を書く	80.5	76.5	4.0	6.6	8.6	2.0
1二		74.5	69.4	5.1	8.8	11.5	2.7
2一ア	物語の冒頭部分を読んで、残雪についての特徴を書く	73.5	72.8	0.7	2.3	2.5	0.2
2一イ	物語の冒頭部分を読んで、おかあさんグマについての特徴を書く	55.0	52.2	2.8	8.6	9.7	1.1
2二	おかあさんグマの目に入った春の訪れについての描写を書く	52.6	49.3	3.3	9.4	10.9	1.5
2三	「わるいこと」という場面の様子をとらえ、おかあさんグマの心情を書く	48.4	45.0	3.4	19.1	22.7	3.6
3一	「図書館だより」から、6年生が読書相談をすることができる曜日と時間帯を書く	43.6	39.2	4.4	3.2	3.8	0.6
3二	「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く	34.4	32.8	1.6	13.8	17.6	3.8
3三(1)	「図書館だより」の内容を案内状に書き換える(案内状の題名)	43.5	41.3	2.2	8.5	11.1	2.6
3三(2)	「図書館だより」の内容を案内状に書き換える(行事の内容)	35.2	32.4	2.8	17.7	21.6	3.9
4アイウ	2つの意見文を比べて読み、文章の組み立てとして適切な内容を選択する	63.5	59.4	4.1	9.5	12.7	3.2
4工才力		39.5	35.6	3.9	11.2	14.9	3.7

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [国語A：主として知識]
京都府一生徒（公立）

中学校 [国語A]

集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率	⑩差	⑪差
京都府(公立)	18,255	173	73.5	-0.1	-0.2
全 国(公立)	1,029,961	10,119	73.6		

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	⑩差	⑪差
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	79.5	80.1	▲0.6	0.4
	書くこと	54.3	55.2	▲0.9	▲0.6
	読むこと	70.8	71.0	▲0.2	▲0.3
	言語事項	75.4	75.2	0.2	▲0.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	87.7	87.3	0.4	1.8
	話す・聞く能力	79.5	80.1	▲0.6	0.4
	書く能力	54.3	55.2	▲0.9	▲0.6
	読む能力	70.8	71.0	▲0.2	▲0.3
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.2	0.2	▲0.8
問題形式	選択式	71.3	71.3	0.0	▲0.1
	短答式	77.1	77.4	▲0.3	▲1.0
	記述式				

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1一	話合いの一部を読み、発言の仕方の良い点の説明として適切なものを選択する	59.6	61.7	▲2.1	0.4	0.3	▲0.1
1二ア	話合いの方向をとらえた司会の適切な発言を選択する	80.6	80.5	0.1	0.6	0.4	▲0.2
1二イ	話合いの方向をとらえた司会の適切な発言を選択する	92.3	92.8	▲0.5	1.5	1.2	▲0.3
2一虎	故事とその解説を読み、「虎」にたとえられている人物を選択する	65.2	64.3	0.9	0.5	0.4	▲0.1
2一狐	故事とその解説を読み、「狐」にたとえられている人物を選択する	60.4	58.9	1.5	0.5	0.4	▲0.1
2二	たとえ話を読み、故事成語(虎の威を借る狐)の意味として適切なものを選択する	78.5	77.7	0.8	0.5	0.4	▲0.1
3一	意見文に対する評価として適切なものを選択する	38.8	39.7	▲0.9	0.5	0.4	▲0.1
3二	他の人の意見文を参考に段落分けをしたものとして、適切な組合せを選択する	69.9	70.8	▲0.9	0.7	0.6	▲0.1
4一	インタビューをする際の心がけとして適切なものを選択する	73.7	74.4	▲0.7	0.9	0.6	▲0.3
4二	インタビューの展開に即した質問を書く	91.4	91.3	0.1	3.9	4.0	0.1
5一	事象(茶わんの湯気の渦の様子)について書かれた一文を本文中から探して書く	44.0	45.4	▲1.4	5.8	5.5	▲0.3
5二	記述の一部を、文章中の他の言葉を使って書き換える	57.5	58.1	▲0.6	14.3	14.8	0.5
5三	文章の展開についての説明として適切なものを選択する	72.9	73.9	▲1.0	1.1	1.0	▲0.1
6一1	漢字を書く(将来のことはヨソクできない)	61.1	63.2	▲2.1	14.7	15.1	0.4
6一2	漢字を書く(富士山をハイケイに写真をとる)	79.6	77.5	2.1	8.7	10.1	1.4
6一3	漢字を書く(一定の温度をタモつ)	82.8	83.5	▲0.7	12.7	12.5	▲0.2
6二1	漢字を読む(標準記録を突破する)	97.2	96.8	0.4	1.9	2.1	0.2
6二2	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)	91.9	90.6	1.3	3.4	4.1	0.7
6二3	漢字を読む(世界の平和を祈る)	97.4	97.2	0.2	1.6	1.7	0.1
6三ア	適切な同訓異字を選択する(お皿のふちが欠ける)	90.5	88.9	1.6	1.0	1.1	0.1
6三イ	適切な類義語を選択する(考えを変えるように彼を説得してください)	95.0	94.9	0.1	1.0	1.0	0.0
6三ウ	適切な副詞の呼応を選択する(彼の性格を考えるとおそらく来ないだろう)	97.6	97.4	0.2	1.0	1.0	0.0
6三エ	適切な語句を選択する(大水のために他の町との交通がしばらくとだえた)	93.0	92.3	0.7	1.0	1.1	0.1
6三オ	適切な語句を選択する(彼がこの討論の口火を切った)	54.0	54.7	▲0.7	1.3	1.4	0.1
6三カ	適切な敬語を選択する(校長先生は壁にはった生徒の絵をご覧になりました)	71.0	74.3	▲3.3	1.4	1.5	0.1
6三キ	適切な同音異義語を選択する(中学生を対象に調査する)	67.1	66.0	1.1	1.1	1.1	0.0
6四	行書・楷書の特徴の説明として適切なものを選択する	81.2	79.9	1.3	1.2	1.3	0.1
6五	見やすく書かれている伝票の説明として適切なものを選択する	46.0	45.1	0.9	1.3	1.4	0.1
6六ア	漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいものを選択する(街頭)	72.3	71.6	0.7	1.5	1.8	0.3
6六イ	漢和辞典で調べた意味の中から、ふさわしいものを選択する(年頭)	37.9	37.9	0.0	1.8	2.0	0.2
6七	国語辞典で調べたことをもとに、慣用句の意味を書く	41.3	41.4	▲0.1	21.0	22.2	1.2
6八ア	「竹取物語」の冒頭部分の文章に句点をつける	87.7	87.3	0.4	5.2	5.5	0.3
6ハイ①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いふ)	91.2	91.9	▲0.7	4.4	4.6	0.2
6ハイ②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(あたり)	79.6	81.7	▲2.1	5.6	5.6	0.0

◇ どの領域も全国とほぼ同水準であるが、「言語事項」については、全国平均との差が昨年度から1ポイント上昇し、改善が進みつつある状況がうかがえる。

◇ 漢字の読みや語の意味や使い方を問う設問は、一部を除き9割以上の高い正答率であり、全国平均を上回っているものが多い。言語事項に関する改善が進みつつある状況がうかがえる。

◆ 「話すこと・聞くこと」は、昨年度は全国平均を上回っていたが、今年度は0.6ポイント下回っている。正答率は79.5%で、学習内容は概ね定着しているといえるが、更に改善を進める必要がある。

◆ 「書くこと」は、正答率が5割を超える程度で、全国平均を0.9ポイント下回っており、課題である。

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [国語B：主として活用]
京都府一生徒（公立）

中学校 [国語B]

集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率	(20)差	(19)差
京都府(公立)	18,286	173	61.0	0.2	0.0
全 国(公立)	1,030,260	10,117	60.8		

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	(20)差	(19)差
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと				
	書くこと	47.1	46.7	0.4	1.0
	読むこと	61.0	60.8	0.2	0.4
	言語事項	61.5	60.5	1.0	▲0.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	47.2	46.9	0.3	1.0
	話す・聞く能力				
	書く能力	47.1	46.7	0.4	1.0
	読む能力	61.0	60.8	0.2	0.4
	言語についての知識・理解・技能	61.5	60.5	1.0	▲0.1
問題形式	選択式	70.3	70.3	0.0	▲0.2
	短答式				
	記述式	47.1	46.7	0.4	▲0.6

◇ 「書くこと」「読むこと」の領域は全国とほぼ同水準であるが、「言語事項」については、「国語A」と同様に全国を超えており、改善が進んでいる状況がうかがえる。

◇ 「読むこと」に関して、複数の文章を読み内容や表現の特徴をとらえたり、文学的な文章の登場人物の関係や心情を問う設問は、比較的高い正答率を示している。

◆ 「書くこと」の正答率は、47.1%で、依然として課題である。特に、資料から必要な情報を読み取り、書く内容を整理して論理的に書くことに課題がある。

◆ 「読むこと」及び「言語事項」の正答率は、60%を僅かに超える程度であり、引き続き課題がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1一	資料中の言葉(フリギン)についての適切な説明を選択する	67.7	68.1	▲0.4	0.4	0.3	▲0.1
1二	資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択する	67.0	67.4	▲0.4	0.6	0.5	▲0.1
1三	別の資料に書かれている新しい情報を選び出し、条件にしたがって書き換える	26.6	26.5	0.1	17.0	17.6	0.6
2一	登場人物の関係を適切に表している組み合わせを選択する	78.8	79.0	▲0.2	0.7	0.5	▲0.2
2二	登場人物の行動から読み取れる心情として適切なものを選択する	75.8	75.2	0.6	0.9	0.7	▲0.2
2三	登場人物の行動を読み取り、付箋に整理して書く	46.8	46.0	0.8	20.6	21.9	1.3
2四	登場人物が大切にしていると考えられることを四字熟語と関連付け、80字以上120字以内で書く	61.5	60.5	1.0	26.1	27.9	1.8
3一	レポートの内容についての適切な説明を選択する	77.9	78.3	▲0.4	1.7	1.6	▲0.1
3二	グラフから読み取れることの説明として、適切なものを選択する	54.5	53.6	0.9	2.1	2.0	▲0.1
3三	「全然」の使い方についての自分の考えを、根拠を明確にして70字以上100字以内で書く	53.3	53.7	▲0.4	13.2	13.5	0.3

3 国語科の授業改善に向けて

言語の教育としての立場を明確にした指導

- ・ 学習指導要領の改訂に向けた中教審答申では、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」を育成し、「感性や情緒をはぐくむ」ことが重視されている。京都府では、これまでも「言語の教育としての立場」を重視してきたが、国語科を中心として各教科等での言語活動を一層充実させることにより、常に言語の能力を育成する指導を目指すことが大切である。
- ・ 調査結果から明らかになった課題は、新しい学習指導要領と関連付けて、その目標を達成することで解決することができる。特に、発達の段階を踏まえた系統性を重視して身に付けさせたい力を明確にし、系統的・段階的に、また、必要なことは重点的に繰り返し指導することが重要である。

基礎・基本の習得から活用への道筋をはっきりさせた指導

- ・ 思考力・判断力・表現力等は、これから時代に求められる力として新しい学習指導要領でも特に重視されている。活用に関する問題においては、これらの力が問われたが、京都府においても一層の充実が望まれる。思考力・判断力・表現力等を育成するためには、国語科の基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図るとともに、学んだ知識や技能等を活用して課題を追究する学習活動を充実させることが大切である。
- ・ 国語で身に付けた知識・技能を活用するには、様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を設定し、言語活動を一層充実させることが大切である。そのためには、学習指導要領に示されている言語活動例を効果的に活用し、国語科ですが、基礎・基本の習得から活用への道筋をはっきりさせた指導の在り方を確立させることが求められる。

国語への学習意欲を育てる指導

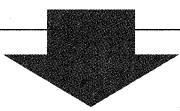
- ・ 昨年度に続き今回の調査でも、国語科への学習意欲に課題が見られた。国語科が言語に関する能力の育成を図る中心的な役割を担っていることを鑑みると、児童生徒の国語を学ぶ意欲を育てるための一層の授業改善が必要である。
- ・ 学習意欲を育てるためには、学ぶことの意義や有用性を感じる場の設定をすることが大切である。そのためにも、身に付けさせたい力を明確にした指導は、ますます重要になってくる。
- ・ 国語科以外の各教科等における言語活動を充実させることは、児童生徒の言語の能力と学習意欲を高める上で非常に重要である。指導者は、国語で身に付けさせた言語の知識・技能を各教科等の学習と関連付け、学習や生活に生かしていくとする意識を持たせるよう指導することが求められる。

4 国語科の授業改善の提言

「言葉の働きに着目した指導」の一層の充実を!

改善のポイント

- 言語の教育としての立場を重視し、身に付けさせたい力を明確にして、系統的に、段階的に、また実態等に応じて、重点的に繰り返し指導すること。
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、学んだ知識や技能等を活用する学習活動を充実させ、基礎・基本の習得から活用への道筋を明確にした指導の在り方を確立すること。
- 児童生徒が国語の学習を好きと感じ、意欲を持ち、より主体的に学ぶことができるようすること。



各学校での今後の取組・授業改善の一例

今回の学力・学習状況調査における国語科の結果を問題ごとに分析し、児童生徒の課題を領域別に明らかにした。

明らかになった課題を「授業においてどのように改善し、克服させていくのか」改善を図る視点の一例を領域ごとに示しているので、各学校における児童生徒の学力実態と比較検討することにより、それぞれの実態に応じた授業改善を図る参考としていただきたい。

資料の見方

話すこと・聞くこと

成 果 (相当数の児童生徒ができる点)

- ◇ スピーチの組立の工夫をとらえる。(主に小学校)
- ◇ 下書きの文象と発表原稿と比べ、発表しやすいように工夫したところをとらえる。(主に小学校)
- ◇ インタビューをする際、話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考え、適切な質問をする。(主に中学校)

課 題 (指導を一層充実せしめることが求められる点)

- ◆ 話合いを行う際、話の構成に注意しながら確に聞き取る。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!

- 全国学力・学習状況調査結果から見られる成果と課題のうち特徴的なものを示している。
- ◇ その領域における成果
 - ◆ その領域における課題

重点課題 話の構成に注意しながら確に聞き取る。
話し合いの際のポイントを具体的に指す
授業を変えるポイント!
①目的を明確に (②端序)
③他自分の意見を聞きながら論点整理
話し合いの進め方

例えば、こののような授業改善を!!

司会は発言を聞き取り、話題を絞ることで話し合いを方向づける役割をしています。
生活委員会の発言で、話の組み立てを工夫しているところはどこでしょう?
話の組立の工夫に気付くことができれば、自分の発言にも生かすことができます。

指導の系統性(新学習指導要領より)

- 話題に沿って (小学校1年)
- 考え方の共通点や相違点 (小学校2年)
- 指導や意図 (小学校3年)
- 計画的・計画的に話し合う (小学校4年)
- 話題や方向 (小学校5年)
- 立場や尊重 (小学校6年)
- 立場の尊重 (中学校1年)
- 立場の尊重 (中学校2年)

☆各学年の発達段階に応じて話し合いのポイントを指導!
☆話し合いの過程を振り返るなど自己評価や相互評価を取り入れた普段活動を!
☆他教科等との指導と連携付けて!

- 「例えば、課題を克服するためにはどのような指導をすることが大切か」など取組の一例を示している。

- 上記の取組の一例は、該当学年だけの指導内容ではなく、系統的なつながりを持っている。どのような系統性を持った指導内容なのか、キーワードで示している。
- 新しい学習指導要領を見据えて整理している。

☆ 領域間の関連を視点とした提言、及び、府の(基礎)学力診断テスト結果との関連については、別ページでまとめている。

話すこと・聞くこと

成 果 (相当数の児童生徒ができている点)

- ◆ スピーチの組立の工夫をとらえる。(主に小学校)
- ◆ 下書きの文章と発表原稿とを比べ、発表しやすいように工夫したところをとらえる。(主に小学校)
- ◆ インタビューをする際、話し手の意図を理解し、インタビューの展開を考えて、適切な質問をする。(主に中学校)

課 題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 話合いを行う際、話の構成に注意しながら的確に聞き取る。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!



取組の一例

重点課題

話の構成に注意しながら的確に聞き取る。

授業を変える ポイント!

話合いの際のポイントを具体的に指導する。

- ①目的を明確に ②課題に沿って自分の考えを深める
- ③自他の考え方の比較 ④別の立場の考え方の尊重
- ⑤司会の役割を自覚 ⑥話し手の意図を考えながら論点整理
- ⑦話合いの望ましい方向を探る

話合いをする

(司会) それでは話し合いを始めます。昨日の活動の問題点について美化委員から報告してください。
(美化委員) はい。昨日の活動が終了したあと、画用紙や定規が片付けられていなかったり、教室や廊下にゴミが散らかっていました。
(司会) 後かたづけの問題ですね。これについて何か意見はありますか。
(美化委員) 私は昨日、下校時間に遅れないように、みんながあわてて帰っていく姿を見かけました。でも、後片付けは大切なことで、下校が少し遅くなってしまっても最後まで片付けてから帰るべきだと思います。
(生活委員) 私はその意見に反対です。下校時間を見るのは、大切なことだと思うからです。決められた時間を守るというのは、今年の生活委員会の活動の重点でもあります。下校時間と片づけとの両方が守られるような、良い方法はないでしょうか。(後略)

司会は発言を聞き取り、話題を絞ることで話合いを方向付け役割をしていますね。

生活委員の発言で、話の組立てを工夫しているところはどこでしょう?

話の組立の工夫に気付くことができれば、自分の発言にも生かすことができますね。

話合いが効果的に展開するよう、発言の良い点を聞き取る設問。
(4つの選択肢より選択)【中A1一府正答率:59.6%】

指導の系統性(新学習指導要領より)

話題に沿って

【小学校1・2年】

考え方の共通点や
相違点・司会や
提案など

【小学校3・4年】

☆各学年の発達段階に応じて話合いのポイントを指導!

☆話合いの過程を振り返るなど自己評価や相互評価を取り入れた言語活動を!

☆他教科等との指導と関連付けて!

効果的に展開
進行の工夫

【中学校3年】

立場や意図
計画的に話し合う

【小学校5・6年】

話題や方向
発言を注意して聞く

【中学校1年】

立場の尊重
目的に沿って

【中学校2年】

書くこと

成 果 (相当数の児童生徒ができている内容・ことがら)

- ◇ 文章に合わせて内容を要約し簡潔に小見出しを書く。(主に小学校)
- ◇ 文章を読み評価した理由を書く。(主に小学校)

課題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 文章の構成や表現の効果を確かめ正しく推敲する。(主に小学校)
- ◆ 必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く。(主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!

取組の一例

重点課題 必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く。

授業を変える ポイント!

- 書く内容を整理し、条件に合うように書き換えさせる。
- 読み返して推敲させる。

新しい情報をもとに内容を書き換える

B 新しい情報

A 古い文章

2007年4月20日
花を咲かせるホルモンを発見
奈良先端科学技術大学院大学グループ

思いどおりの時期に植物の花を咲かせるホルモン「フロリゲン」が発見された。このホルモンは約70年前にその存在が提唱されたが、多くの研究者の努力にもかかわらず取り出すことができなかつた。

去年4月16日、日本の奈良先端科学技術大学院大学は、「フロリゲンを世界に先駆け発見した」と発表した。奈良先端科学技術大学院大学のグループは、花に関係する遺伝子を作るタンパク質に着目。葉で作られたこのタンパク質が、茎の先端に集まって開花を引き起こしていることを突き止め、「フロリゲン」と断定した。イネを使った実験では、通常約50日から60日を要する開花を15日から20日で実現。また、イネの遺伝子を用いてキクの開花時期を早めることにも成功した。

2つの文章を比べてみよう。
違いは何か?

書き換える条件は何か?
いくつあるのだろう?

条件に即して書いた後は、意味が通じるか確認しよう。(推敲)
友だちと読み合い、意見や助言を交流し、自分の表現に役立てていこう。(交流・評価)

【中B1三 府正答率:26.6%】

指導の系統性(新学習指導要領より)

文章を読み
返す習慣

【小学校1・2年】

☆「身に付けさせたい力」を明確に!

☆目的・課題に応じた推敲の観点を!

☆効果的な表現の重要性を味わう場を!

文章全体を
整える

【中学校3年】

よりよい表現に

【小学校3・4年】

表現の効果の
確かめ

【小学校5・6年】

表記や語句の用法、
叙述の仕方

【中学校1年】

語句や文の使い方、
段落相互の関係

【中学校2年】

読むこと

成 果 (相当数の児童生徒ができている点)

- ◇ 登場人物の特徴を文中の言葉を使って書く。 (主に小学校)
- ◇ 文章の展開を押さえながら、中心的な内容を考える。 (主に中学校)

課題 (指導を一層充実させることが求められる点)

- ◆ 目的や課題に応じて必要な情報を取り出して整理する。 (主に小学校)
- ◆ 論理の展開に即して、説明的な文章の内容を読み取る。 (主に中学校)

課題を焦点化し、自校の授業改善の取組をスタート!



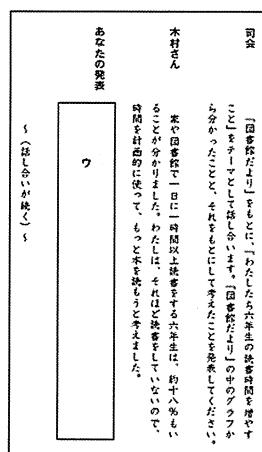
取組の一例

重点課題 必要な情報を読み取り、自分の考えを明確に持つ。

授業を変える ポイント!

- 読む目的を明確にし、必要な情報を取り出し整理する。
- 気付いたことや考えたことをメモに取る。

必要な情報を読み取る



【小B3二 府正答率:34.4%】

- 図書館だよりのどこに、話合いのテーマに沿った内容が書いてあるかな?
- 図書室の木村さんは、学校のみんなが日々学ぶ町の図書室をもっと利用するようになっていっています。次は、木村さんの町にいる鶴山市立図書館が、よく読んで、あなたの町に答えましょう。
- 読書情報について、どんな考え方を持ちましたか? その根拠をメモに書いて整理しよう。
- 条件に合わせて、自分の考えを2、3文(100字程度)でまとめよう。

指導の系統性 (新学習指導要領より)

内容の大体

～大事な言葉や文を書き抜く～
【小学校1・2年】

叙述を基にした考え方

～引用や要約～
【小学校3・4年】

☆「身に付けさせたい力」を明確に!

☆書く活動を生かした「読むこと」の指導の工夫を!

☆自分の考え方の形成及び交流に関する指導事項を

自分の考えを深める

～文章を読み比べて評価～
【中学校3年】

知識や体験と関連付けて

～根拠を明確にした考え方～
【中学校2年】

自分の考え方を明確に

～考えたことを発表し合う～
【小学校5・6年】

自分の考え方を広める

～文章の構成や展開、表現の特徴～
【中学校1年】

領域間の関連を重視した指導

書き手の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てる。

書く力

- 構成を工夫して書く力
 - ・根拠を明らかにして書く。
 - ・論理の展開を工夫して書く。

読む力

- 文章の構成や展開をとらえて読む力
 - ・文章の展開に即して内容をとらえる。
 - ・書き手の論理展開の仕方をとらえる。

◆文章の構成や論理の展開をとらえることが求められる問題

意見文の組み立ての違いを
とらえる<校内のが>

小学校
B
(活用)

中学校
B
(活用)

言葉について考える
<全然>

☆2つの意見文を比べて読み、文章の組み立てとして適切な内容を選択する。

【小B4】

☆レポートの特徴や工夫をとらえ、必要な情報を正しく読み取る。

【中B3一、二】

文章構成の効果を考える。

◆事実と感想、意見などを区別する学習を繰り返し行う!



指導のポイント例

- 事実と感想、意見の違いを的確にとらえる。
 - ・具体的な内容に即して<事実>とそれに基づく<感想、意見>の違いを理解させる。
 - ・文末表現に着目して、筆者の感想、意見をとらえさせるようにする。

文末表現の例 「～と考えられる。」「～といえるだろう。」「～にちがいない。」
「～必要がある。」「～ねばならない。」「～ではないだろうか。」

◆段落相互のつながりから、文章全体の構成をとらえさせる!

- 段落ごとの要点をとらえ、前後の段落とのつながりを考える。
 - ・段落の中心となる内容を的確にとらえ、短く書きまとめさせる。(要約)
 - ・段落相互の関係を「原因と結果」等の言葉でとらえさせるようにする。

段落相互の関係の例 原因と結果、結論と根拠、累加、並列
事例の列挙、抽象的な内容と具体的な説明等

繰り返し 段階的 系統的
指導

領域間の関連を図った指導で言語活動の充実を!

指導内容を明確にした重点的な指導

- 事実と意見との関係に注意する。
- 構成や展開を考える。
- 考えの根拠を明確にする。

発達の段階に即した系統的な指導

「話すこと・聞くこと」

「書くこと」

「読むこと」

◆報告や紹介
◆助言や提案
◆対話や討論
◆説明や発表

◆事物を説明する文章
◆調べて報告する文章
◆意見を記述する文章
◆批評する文章

◆記録や報告の文章
◆意見や解説の文章
◆論説や評論の文章
◆記事や報道の文章

京都府（基礎）学力診断テストとの関連

【小学校】

第4学年を対象に実施した「京都府小学校基礎学力診断テストの成果と課題」と「全国学力・学習状況調査」との関連

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 → 全国調査との関連

話すこと・聞くこと

- ◇ 「何についての話であったか」等、話の内容を聞き取ること。
(正答率 H19 90.6% <3問の平均> H20 85.2%)
- ◆ 相手や目的に応じた話し方の工夫をとらえること。

書くこと

- ◇ 相手や目的に応じ、段落相互の関係を工夫して書くこと。
(正答率 H20 88.1%)
- ◆ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること。
(正答率 H19 52.1%) → 正しく推敲すること
- ◆ 絵地図から必要な情報を収集・選択し、それを基に条件に即して書くこと。
(読むこと・書くこと)

*資料から必要な情報を見付けることはできても、条件に合うように記述する力には課題がある。 → 必要な情報を読み取り、自分の考えを書くこと

読むこと

- ◇ 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、正しく読むこと。
(正答率 H19 80.3% <2問の平均> H20 86.5% <2問の平均>)
- ◆ 目的に応じて文章を読むこと。
→ 目的に応じて必要な情報を取り出して整理すること

言語事項

- ◇ 接続語の使い方を理解すること。
(正答率 H19 86.2%、H20 94.1%)
- ◆ 「修飾と被修飾との関係」をとらえること。(正答率 H19 18.5%)
「主語と述語の関係」をとらえること。(正答率 H20 69.7%)
*例年、すぐ後の語句や修飾する語句のイメージにとらわれた部分を選択する誤答が多い。誤答が分散する傾向も見られる。

「かわいい」がくわしくしている部分を問う (H19)

「かんたんといふ ア (36.7%)	かわいい イ (正答 18.5%)	虫と、 すず虫が、 工 (6.5%)
虫と、すず虫が ウ (36.5%)	ひと足先に来ました。	

→ 文の構成（修飾と被修飾及び主語と述語の関係等）を理解すること

【中学校】

第2学年を対象に実施した「京都府中学校学力診断テストの成果と課題」と「全国学力・学習状況調査」との関連

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 → 全国調査との関連

話すこと・聞くこと

- ◇ 「何が話し合っていたか」等、話し合い全体の話題をおおまかにとらえること。
- ◆ 話の各部分を全体と部分との関係に注意しながら、正確に聞き取ること。

→ 話の構成に注意しながら的確に聞き取ること

書くこと

- ◇ 身近で体験的なテーマについて自分の考えや意見を書くこと。
- ◆ 「ポスターの円グラフ」を読み取り、その説明用原稿を書くこと。
(無答率 H19 12.2%) (読むこと・書くこと)
* 「環境問題」(リサイクル)についてのアンケート結果をまとめたポスターを基に、60字以上100字以内で説明用原稿を書く問題に対して、情報が正確に読み取れていないなどの課題が見られる。

→ 必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと

読むこと

- ◇ 文章の展開に即して主題や要旨をおおまかに読み取ること。
- ◆ 文章の構成を総合的にとらえたり、書かれていることを解釈し応用したりすること。(正答率 H18 46.4%)
* 目的に応じて文章読んだり、活用したりすることに課題が見られる。「書かれていることを、他の形式(円グラフ)に置き換える問題」

→ 書かれていることを解釈し応用すること

言語事項

- ◇ 「語句の意味」や「文と文の接続関係」を正確に理解すること。
- ◆ 「修飾・被修飾の関係」を正しくとらえること。
* 小学校からの課題が中学校でも現われている。すぐ後の語句や修飾する語句のイメージにとらわれた部分を選択する誤答が多い。

「確かに」が修飾(くわしく)している部分を問う(H19)

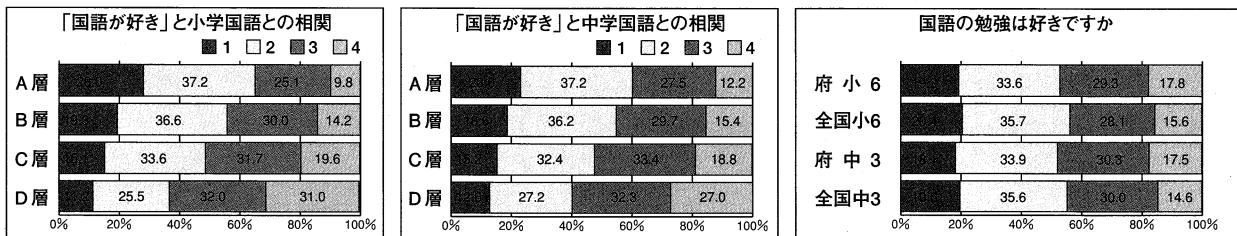
「確かに	自分も	加わった	気がして	うれしかった。」
ア (20.4%)	イ (正答 64.2%)	ウ (5.4%)	エ (1.4%)	

- ◆ 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること。

→ 文脈に即して、漢字を正しく読んだり書いたりすること

5 質問紙調査から見える国語の課題

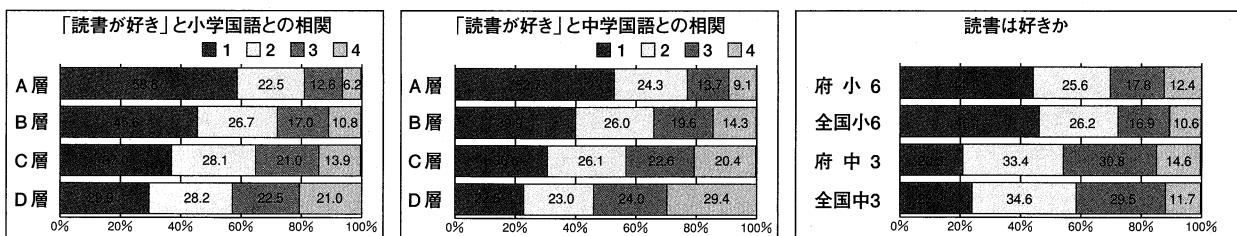
① 「国語が好き」と答えた児童生徒は、5割程度で、全国と比べても低く、昨年度よりも減少。正答率の高い児童生徒ほど、国語の勉強が好きな割合が多いことから、国語科への学習意欲を高めることが学力向上を図るための重要な課題。



◇ 国語が好きな児童生徒は、全国と比べて小・中ともに3.3ポイント低く、昨年度から小学校で4.6ポイント減少。一方で、小中ともに9割近くの児童生徒が「国語の勉強は大切だと思う」と答え、国語学習への関心を示している。また「国語の授業の内容はよく分かる」と答えた児童生徒は、小学校で約78%、中学校で約67%と、昨年度より若干増えている。

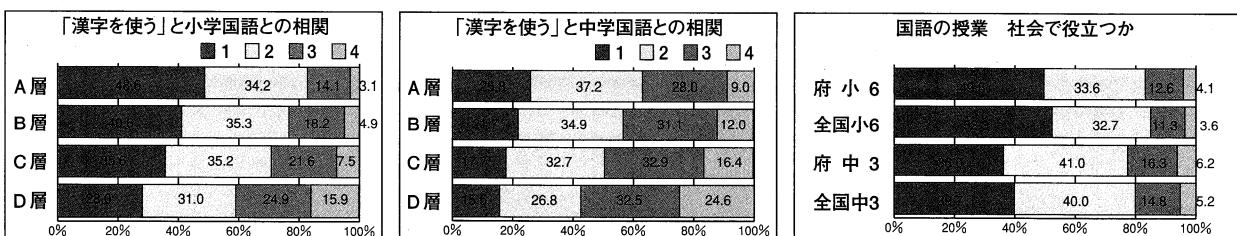
※ 以下、数値は「当てはまる+どちらかと言えば当てはまる」の合計

② 「読書が好き」な児童生徒は、昨年同様の7割程度で、正答率が高い層ほど増える傾向が顕著。読書と学力の強い相関から、読書への意欲を一層高めることが重要。



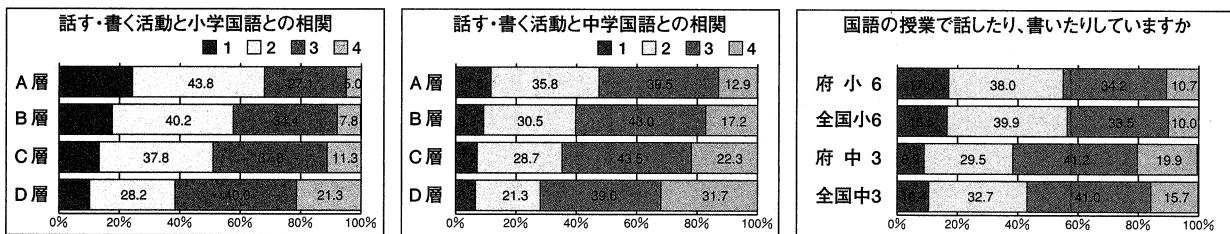
◇ この設問では「当てはまる」と答えた児童生徒と正答率との相関が特に顕著である。読書への強い意欲が学力と深く関わっていることを示している。

③ 「新しく習った漢字を使おうとしている」児童生徒は、小学校で7割強、中学校で5割強。身に付けた国語の能力を主体的に使おうとする意欲と態度を育てることが重要。



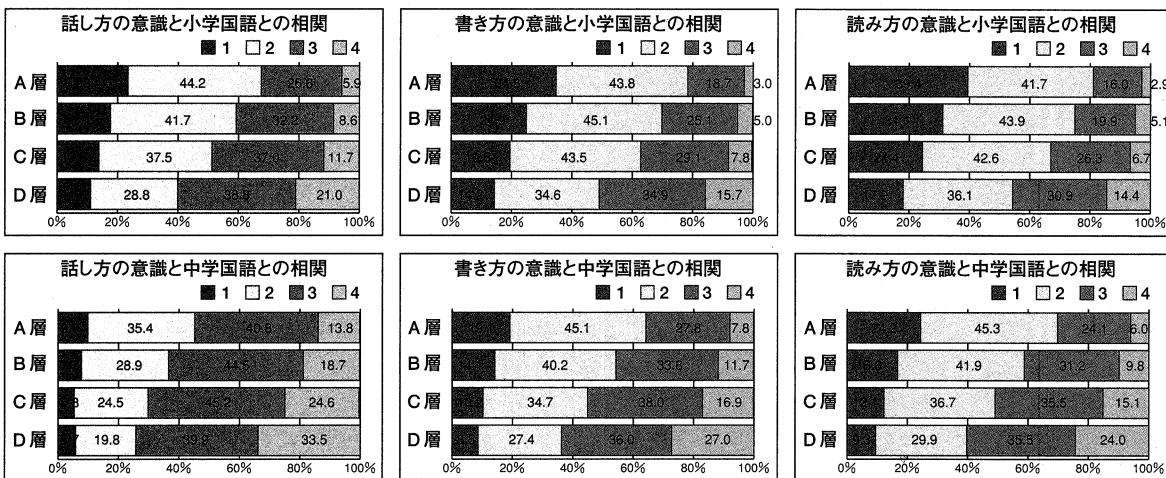
◇ 全国比では、小学校で2.2ポイント、中学校で4.3ポイント下回る状況にある。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」の設問についても、中学校で全国比2.7ポイント、昨年比6.6ポイントの減という状況である。

④ 国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている児童生徒の割合は、小学校で5割強、中学校で4割弱。正答率との相関からも重要な課題。



◇ 国語の授業で話す活動や、書く活動を意識的に行っている児童生徒は、正答率の高い層ほど多い相関がある。小学校では、昨年から5.3ポイントの減少。中学校では、全国と比べて4.7ポイント低い状況。

⑤ 話の組立ての工夫、理由を添えた書き方、段落に着目した読み方など、学習のねらいを意識している児童生徒は、正答率の高い層ほど多い。言語活動の留意点や、学習のねらいを明確にした指導が有効であるといえる。



◇ それぞれ学習のねらいを意識している児童生徒は、「話すこと」が小学校55.6%、中学校35.5%、「書くこと」が小学校66.2%、中学校51.6%、「読むこと」が小学校70.3%、中学校56.0%という状況である。また、全国と比べると、中学校で「話すこと」が4.4ポイント、「書くこと」が3.9ポイント、「読むこと」が5.5ポイント低い状況にある。

指導方法改善の視点

- 児童生徒が国語の学習を「好き」と感じ、意欲をもち、より主体的に学ぶことができるようになるには、次の3点を視点として授業改善を図ることが重要である。
 - ① 児童生徒が目的意識を持って話したり、書いたりできるようにする。
 - ② 振り返りにより、自分がどんな力を身に付けたか自覚できるようにする。
 - ③ 身に付けた国語の能力を各教科の学習や生活の中で生かせるようにする。
- 学力との相関から読書活動が学力向上の基盤となることを重視し、読書活動の推進に向けた取組を一層充実させる必要がある。その際、文学的な読み物に加え、多様な図書資料を取り上げ、各教科における言語活動の充実につながる取組となるよう工夫することが必要である。

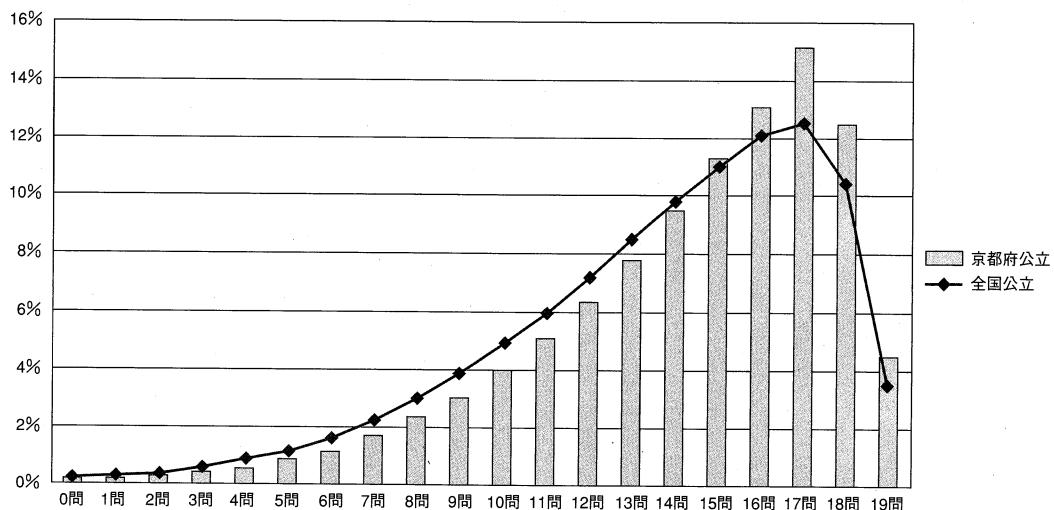
V 京都府における算数・数学 の状況と改善のポイント

1 小学校算数の概要

- 算数A（知識）については、児童の平均正答率が75.3%であり、全国の平均正答率を3.1ポイント上回っており、基礎的・基本的な内容をおおむね身に付けていると考えられる。
- 算数B(活用)については、児童の平均正答率が53.3%であり、全国の平均正答率を1.7ポイント上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

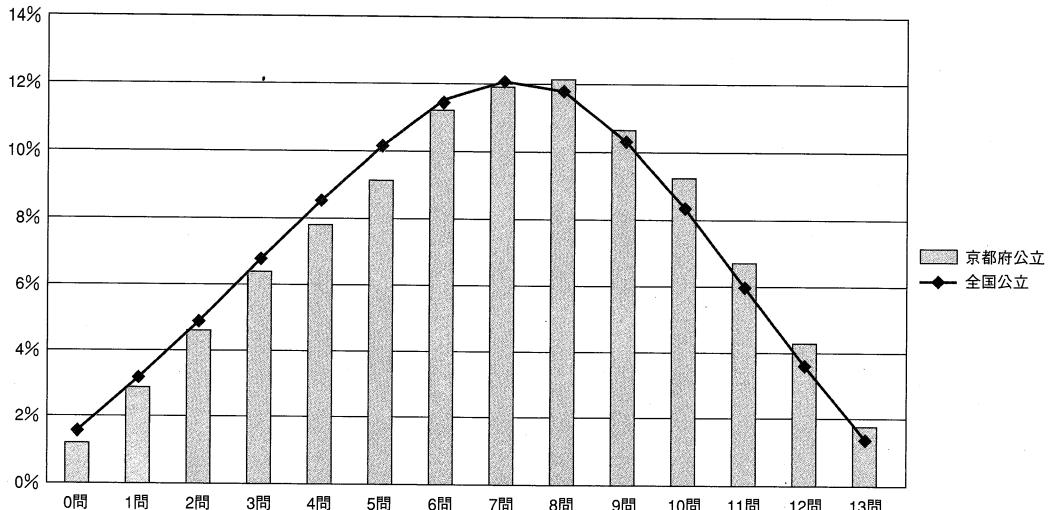
○算数A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	22,361	14.3／19	75.3	15.0	3.5
全 国	1,147,633	13.7／19	72.2	14.0	3.7



○算数B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	22,364	6.9／13	53.3	7.0	3.0
全 国	1,147,475	6.7／13	51.6	7.0	3.0

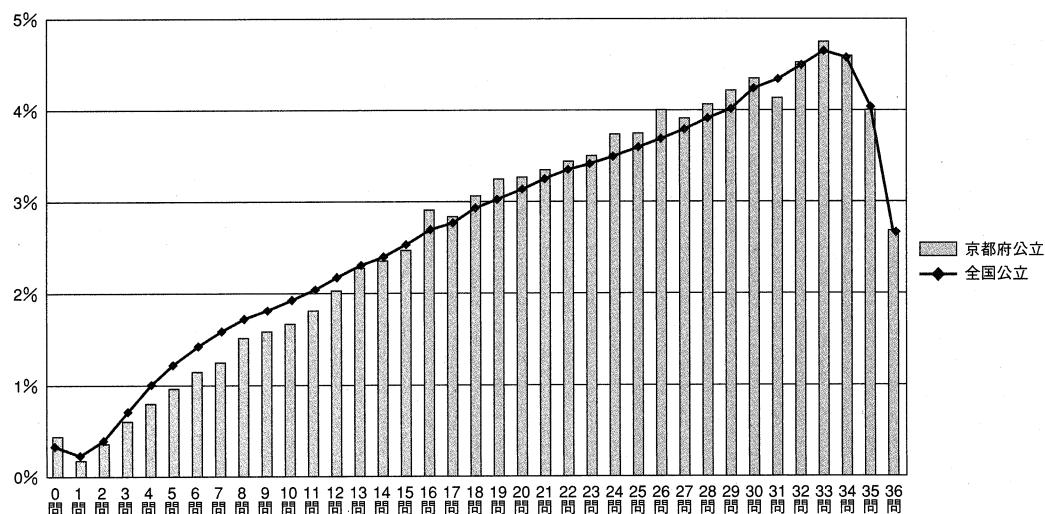


2 中学校数学の概要

- 数学A（知識）について、生徒の平均正答率が64.1%であり、全国の平均正答率を1.0ポイント上回っているが、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付ける必要がある。
- 数学B（活用）について、生徒の平均正答率が49.5%であり、全国の平均正答率を0.3ポイント上回っているが、知識・技能を活用する力に課題がある。

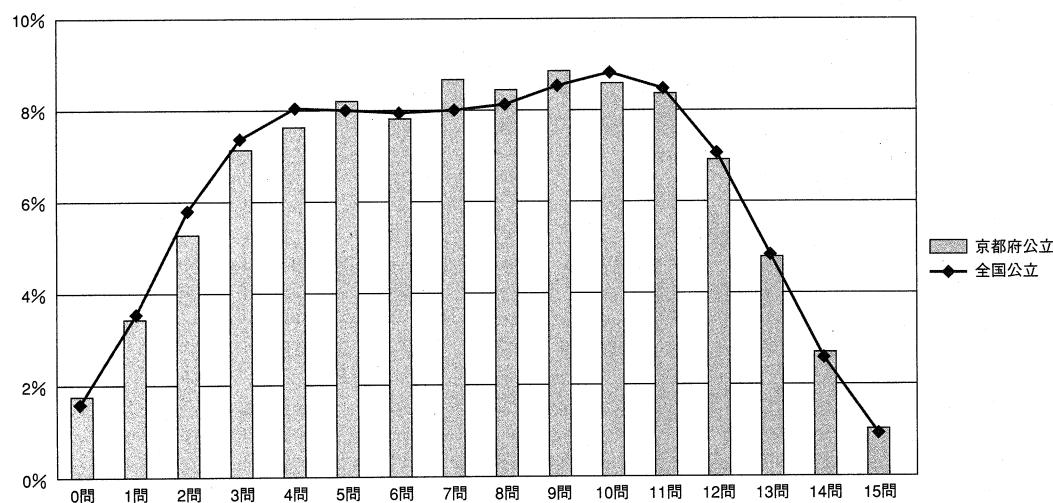
○数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,303	23.1／36	64.1	24.0	8.8
全 国	1,030,425	22.7／36	63.1	24.0	9.0



○数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	18,305	7.4／15	49.5	7.0	3.7
全 国	1,030,521	7.4／15	49.2	7.0	3.7



平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [算数A：主として知識]
京都府一児童（公立）

小学校 [算数A]

集計結果

	児童数	学校数	平均正答率	⑩差	⑯差
京都府(公立)	22,361	427	75.3		
全 国(公立)	1,147,633	21,682	72.2	3.1	3.2

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	⑩差	⑯差
学習指導要領の領域等	数と計算	79.8	76.8	3.0	2.5
	量と測定	56.3	56.2	0.1	2.7
	図形	76.0	72.7	3.3	0.6
	数量関係	78.5	72.4	6.1	6.7
評価の観点	算数への関心・意欲・態度				
	数学的な考え方				
	数量や図形についての表現・処理	85.1	82.1	3.0	4.1
	数量や図形についての知識・理解	69.5	66.4	3.1	2.0
問題形式	選択式	60.0	57.5	2.5	1.7
	短答式	80.7	77.4	3.3	3.4
	記述式				

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1(1)	132-124を計算する	94.3	93.0	1.3	0.2	0.2	0.0
1(2)	52×41を計算する	88.4	86.5	1.9	0.3	0.4	0.1
1(3)	6+0.5を計算する	86.4	82.9	3.5	0.3	0.4	0.1
1(4)	68.4÷36を計算する	79.4	76.2	3.2	2.9	4.1	1.2
1(5)	3+2×4を計算する	80.5	70.9	9.6	0.3	0.5	0.2
1(6)	2÷3の商を分数で表す	73.8	73.7	0.1	3.8	4.6	0.8
2(1)	10を6個、1を8個、0.1を3個合わせた数を書く	90.7	89.4	1.3	0.5	0.7	0.2
2(2)	7/10と等しい数を選ぶ	85.0	82.2	2.8	0.5	0.5	0.0
3	小数の乗法及び除法の式で、計算の答えが被乗数・被除数より大きくなるものを選ぶ	55.1	45.1	10.0	7.3	9.8	2.5
4(1)	12mのテープの長さは3mのテープの長さの何倍かを求める式と答えを書く	85.3	83.0	2.3	1.1	1.4	0.3
4(2)	6mのテープの長さは12mのテープの長さの何倍かを求める式と答えを書く	59.2	55.5	3.7	1.6	2.1	0.5
5	底辺8cm、高さ6cm、斜辺7cmの平行四辺形の面積を求める式と答えを書く	86.5	85.2	1.3	1.3	1.7	0.4
6(1)	重さが約1kgであるものを選ぶ	64.6	65.7	▲1.1	0.5	0.8	0.3
6(2)	面積が約150cm ² であるものを選ぶ	17.9	17.7	0.2	0.7	1.0	0.3
7	円周率を求める式に当てはまる言葉を選ぶ	77.2	76.8	0.4	0.8	1.0	0.2
8(1)	ひし形を1つの対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	78.2	77.4	0.8	5.3	6.2	0.9
8(2)	ひし形を2つの対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	72.6	64.1	8.5	8.3	11.3	3.0
9(1)	円グラフから「科学」の本の冊数の割合をよみとる	93.0	91.4	1.6	1.3	2.0	0.7
9(2)	620冊の本の40%の冊数を求める式と答えを書く	61.9	54.9	7.0	5.5	7.4	1.9

◇ 「量と測定」については20年度、「図形」については19年度に課題があり、十分な力がついているとは言えないものの、次年度の状況をよく見る必要があるが、「数量関係」については、2年連続で全国平均を6ポイント以上上回っており、確かな力を身に付けている。

◇ 全国との比較で見ると、「選択式」に比べ「短答式」での正答率において良い状況が見られる。

◆ 基本的な量である「重さや面積」についての量感を身に付けさせる必要がある。特に「約1kgのものを選ぶ問題」は、小学校算数のすべての問題の中で、唯一全国平均を下回っている。

◆ 小数の乗法及び除法の式で、計算の答えが被乗数・被除数より大きくなるものを選ぶ問題に課題があり無解答率も高いので、今後の改善が必要である。

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [算数B：主として活用]
京都府一児童（公立）

小学校 [算数B]

集計結果

	児童数	学校数	平均正答率	⑩差	⑯差
京都府(公立)	22,364	427	53.3		
全 国(公立)	1,147,475	21,679	51.6	1.7	2.8

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	⑩差	⑯差
学習指導要領の領域等	数と計算	66.4	65.2	1.2	5.0
	量と測定	55.5	53.3	2.2	2.9
	図形	63.1	61.2	1.9	1.8
	数量関係	46.6	44.9	1.7	3.4
評価の観点	算数への関心・意欲・態度				
	数学的な考え方	44.1	42.1	2.0	3.5
	素量や图形についての表現・処理	74.1	73.0	1.1	2.1
	数量や图形についての知識・理解				
問題形式	選択式	63.3	62.1	1.2	2.1
	短答式	75.4	74.0	1.4	1.7
	記述式	30.1	27.7	2.4	4.8

◆ 「数と計算」は、日常の事象を数理的にとらえ、規則性を読みとることは相当数の児童ができている。

◆ 「図形」では、日常の事象を数理的にとらえ、事象を観察して图形を見いたすことは相当数の児童ができている。

◆ 「量と測定」は、長方形から四角形に图形を変えて考える発展的な場面で、图形の性質を基に面積の関係をとらえ、判断の理由を言葉や式で記述することに課題がある。

◆ 「数量関係」では、示された解決方法を用いて別の問題の解決方法を考え、数や式、言葉を用いて記述することに課題がある。また、折れ線グラフと棒グラフの対応を判断し、両者の違いを数学的に表現することに課題がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1(1)	ドアを開け閉めすると、置いた物にドアが当たってしまう場所を正しく表している図を選ぶ	86.0	84.9	1.1	1.0	1.2	0.2
1(2)	どの2つの戸棚を選んで置いても、ドアを開け閉めすると、ドアが戸棚に当たってしまうわけを書く	32.1	30.1	2.0	9.5	12.0	2.5
2(1)	グラフからA町の1980年の農業生産額を読みとる	84.9	84.3	0.6	1.9	2.1	0.2
2(2)	棒グラフと円グラフから、2000年の野菜の生産額を求めるために必要な情報を選ぶ	59.2	58.4	0.8	2.6	3.1	0.5
2(3)	米の生産額について、「割合が減っているから、生産額は減っている」という考え方方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	18.2	17.3	0.9	1.4	1.9	0.5
3(1)	三角形の各頂点を中心に円の一部をかき、それらをあわせた面積を求める式を選ぶ	58.9	57.8	1.1	1.9	2.5	0.6
3(2)	長方形の各頂点を中心に円の一部をかき、それらをあわせた面積が、三角形の場合の何倍になるかを答える	70.8	69.1	1.7	6.0	7.1	1.1
3(3)	長方形と四角形について、各頂点を中心に円の一部をかき、それらをあわせた面積の関係をとらえ、判断のわけを書く	36.8	33.1	3.7	4.1	6.1	2.0
4(1)	5班編成の掃除当番表を基に、7週目の掃除当番表と同じになる週を選ぶ	82.2	81.2	1.0	4.1	4.2	0.1
4(2)	教室の掃除をする週の求め方を基に、校庭の掃除をする週の求め方を書く	41.4	38.3	3.1	1.4	1.6	0.2
5(1)	学年ごとの身長を表した表から、5年生から6年生までの身長の伸びを求め、棒グラフに表す	70.5	68.6	1.9	2.9	4.1	1.2
5(2)	身長の変化を表す折れ線グラフの一部分と、身長の伸びを表す棒グラフの一部分を比べて、その違いを書く	22.1	19.4	2.7	17.6	21.5	3.9
5(3)	与えられた折れ線グラフが、誰の身長の変化を表したものかを考え、当てはまる人の身長の伸びを表している棒グラフを選ぶ	30.2	28.0	2.2	8.3	11.2	2.9

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [数学A：主として知識]
京都府一生徒（公立）

中学校 [数学A]

集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率	⑯差	⑰差
京都府（公立）	18,303	173	64.1		
全 国（公立）	1,030,425	10,116	63.1	1.0	0.9

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京 都 府	全 国	⑯差	⑰差
学習指導要領の領域等	数と式	70.0	68.0	2.0	1.3
	图形	63.6	62.7	0.9	0.1
	数量関係	58.6	58.6	0.0	0.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度				
	数学的な見方や考え方				
	数学的な表現・処理	63.5	62.5	1.0	1.7
	数量・图形などについての知識・理解	64.6	63.6	1.0	0.1
問題形式	選択式	62.7	61.8	0.9	0.1
	短答式	65.2	64.1	1.1	1.4
	記述式				

◇ 「数と式」は、指数を含む計算、整式の減法の計算、一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができている。特に、指数を含む計算については、全国平均正答率を大きく上回っている。

◆ 文字式が表す意味の理解、等式変形に課題がある。

◇ 「图形」は、基本的な平面图形の性質の理解については、相当数の生徒ができる。円周角の大きさを求める問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。

◆ 点対称な图形を完成させる問題の正答率は、全国平均を大きく下回っている。

◇ 「数量関係」は、場合の数、確率を求める問題については、相当数の生徒ができる。

◆ 反比例や一次関数の関係を式に表すことに課題がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京 都 府	全 国		京 都 府	全 国	
1(1)	5/7-2/3 を計算する	88.2	85.1	3.1	2.3	2.8	0.5
1(2)	正の数と負の数で表した2つの市の最低気温の差を求める	78.4	76.9	1.5	2.2	2.5	0.3
1(3)	2×(-3 ²) を計算する	77.6	71.4	6.2	1.5	1.6	0.1
2(1)	(5x-8)-2(x-3) を計算する	84.2	82.5	1.7	2.9	3.6	0.7
2(2)	a=4,b=-3 のときの式 ab の値を求める	73.5	70.7	2.8	10.9	12.9	2.0
2(3)	n を自然数とするとき、いつでも奇数になる式を選ぶ	75.4	72.1	3.3	1.0	0.8	▲0.2
2(4)	等式 x+2y=6 を、y について解く	54.7	53.9	0.8	8.8	9.9	1.1
2(5)	3a+4b で表される事象を選ぶ	32.3	31.4	0.9	1.0	0.8	▲0.2
3(1)	-5x+7=-x+31 を解く	80.2	77.8	2.4	6.1	7.5	1.4
3(2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	59.3	59.6	▲0.3	17.8	19.1	1.3
3(3)	x-y=1 の解の個数を選ぶ	59.2	58.0	1.2	1.9	1.7	▲0.2
3(4)	連立方程式 y=3x-1 3x+2y=16 を解く	77.1	76.7	0.4	10.0	11.2	1.2
4(1)	点対称な图形を完成する	53.7	57.7	▲4.0	4.0	4.1	0.1
4(2)	垂線の作図で利用されている图形の性質を選ぶ	51.2	51.5	▲0.3	1.7	1.4	▲0.3
5(1)	直方体において、与えられた面上に垂直な辺を書く	68.1	65.6	2.5	2.8	3.3	0.5
5(2)	円錐と円柱の体積を比較し、正しい図を選ぶ	52.8	51.4	1.4	0.8	0.7	▲0.1
6(1)	1組の平行線に1つの直線が交わるとき、和が180°になる2つの角を選ぶ	80.6	79.2	1.4	0.9	0.7	▲0.2
6(2)	n角形の内角の和を求める式で、(n-2)が表すものを選ぶ	46.4	46.1	0.3	1.2	1.0	▲0.2
6(3)	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ	66.9	64.7	2.2	1.0	0.8	▲0.2
6(4)	円周角の大きさを求める	64.4	59.6	4.8	7.6	8.7	1.1
6(5)①	三角形の内角の和が180°であることの理由の説明を完成する	78.2	78.5	▲0.3	1.3	1.0	▲0.3
6(5)②	三角形の内角の和が180°であることの理由の説明を完成する	82.6	82.8	▲0.2	1.9	1.4	▲0.5
7	平行四辺形になるための条件を、記号を用いて表す	59.3	57.3	2.0	12.8	13.6	0.8
8	証明で用いられている図が考察対象の图形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	58.5	57.6	0.9	1.6	1.4	▲0.2
9(1)	数量の関係が比例になるものを選ぶ	61.7	58.7	3.0	1.6	1.5	▲0.1
9(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	60.5	62.7	▲2.2	2.1	1.8	▲0.3
10	比例のグラフ上に、xの変域に対応する部分を図示する	40.5	42.6	▲2.1	16.5	15.5	▲1.0
11(1)	反比例のグラフ上の点の座標を求める	72.4	73.3	▲0.9	12.0	11.7	▲0.3
11(2)	反比例のグラフから式を求める	36.0	35.9	0.1	23.6	25.5	1.9
12(1)	一次関数の式からグラフの傾きを求める	51.4	53.3	▲1.9	19.5	20.0	0.5
12(2)	一次関数の表から式を求める	36.8	36.6	0.2	26.3	27.5	1.2
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	57.5	57.2	0.3	2.4	2.4	0.0
14(1)	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフをもとに、2cm燃えるときの時間を選ぶ	62.7	63.2	▲0.5	1.9	1.9	0.0
14(2)	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフをもとに、18分後の線香の長さを求める	71.5	71.1	0.4	5.8	6.4	0.6
15(1)	場合の数を求めるための正しい樹形図を選ぶ	76.5	74.3	2.2	2.0	2.0	0.0
15(2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	76.2	74.6	1.6	9.2	10.4	1.2

平成20年度全国学力・学習状況調査
設問別調査結果 [数学B：主として知識]
京都府一生徒（公立）

中学校 [数学B]

集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率	⑩差	⑯差
京都府(公立)	18,305	173	49.5	0.3	0.6
全 国(公立)	1,030,521	10,114	49.2		

分類・区分別集計結果

分 類	区 分	平均正答率(%)			
		京都府	全 国	⑩差	⑯差
学習指導要領の領域等	数と式	52.7	54.2	▲1.5	0.7
	図形	56.7	57.6	▲0.9	0.7
	数量関係	46.0	44.7	1.3	0.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度				
	数学的な見方や考え方	46.9	47.0	▲0.1	0.6
	数学的な表現・処理	66.4	63.1	3.3	0.5
問題形式	数量、图形などについての知識・理解				
	選択式	55.6	55.2	0.4	0.4
	短答式	63.2	62.5	0.7	0.7
	記述式	35.2	35.3	▲0.1	0.5

◆ 「数と式」は、予想された事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することに課題がある。無解答率も高くなっている。

◆ 「図形」は、提示された方針に基づいて証明することに課題がある。無解答率も高くなっている。

◇ 「数量関係」は、与えられた情報を分類整理する問題(組合せの総数)の正答率は、全国平均を大きく上回っている。

◆ 事象を理想化したり単純化したりしてとらえ、その特徴を数学的に解釈し、一次関数であることを判断することに課題がある。また、事象を数学的に解釈して判断し、その理由や方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。無解答率も高くなっている。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率		差 (府一国)	無解答率		差 (国一府)
		京都府	全 国		京都府	全 国	
1(1)	上腕骨の長さから身長を推定する式を用いて、およその身長の値を選ぶ	73.6	72.1	1.5	0.6	0.5	▲0.1
1(2)	上腕骨の長さの差が4cmのとき、身長の差を式を用いて推定する	49.2	48.1	1.1	8.3	8.6	0.3
1(3)	男性の場合と女性の場合で、上腕骨の長さの差が等しいとき、身長の差が大きくなる方を選び、その理由を説明する	19.8	18.5	1.3	5.2	5.9	0.7
2(1)	82と82の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との和を、式で表す	73.8	76.2	▲2.4	5.6	5.5	▲0.1
2(2)	2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との和が11の倍数になる説明を完成する	35.6	38.5	▲2.9	25.9	27.7	1.8
2(3)	2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との差について予想した事柄を表現する	48.6	48.0	0.6	36.0	37.2	1.2
3(1)	積み重ねたペニヤ板の枚数の求め方を読み、枚数を何に置きかえて考えているかを答える	70.6	71.5	▲0.9	10.2	9.7	▲0.5
3(2)	釘の全体の重さが分かっているとき、釘の本数を求めるために調べるものを見つけて、本数を求める方法を説明する	52.4	50.9	1.5	2.6	2.8	0.2
3(3)	数量を求める際、別の数量に置きかえて個数を求める方法に共通する考え方を選ぶ	51.2	49.8	1.4	2.3	2.0	▲0.3
4(1)	辺の長さが等しいことを証明する際に、その辺を含む三角形の合同を示せばよい理由を選ぶ	62.2	63.3	▲1.1	2.1	1.8	▲0.3
4(2)	2つの線分の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	42.0	43.3	▲1.3	27.8	28.7	0.9
4(3)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新しく分かることを選ぶ	65.8	66.3	▲0.5	2.5	2.2	▲0.3
5(1)	5つの湖から2つの湖を選ぶ組合せの総数を求める	59.1	54.1	5.0	6.9	6.9	0.0
5(2)	高さの増大に伴って、気温が一定の割合で減少することから、高さと気温との関係を選ぶ	25.3	24.6	0.7	2.5	2.4	▲0.1
5(3)	表やグラフのデータをもとに、富士山の6合目の気温を求める方法を説明する	12.6	12.5	0.1	57.8	59.8	2.0

3 算数・数学科の授業改善に向けて

学習意欲の向上と授業の見直しを

今回の質問紙調査で、「算数・数学の勉強は大切」と答えた児童生徒の割合は、小学校で9割、中学校で7割と高い結果であったが、「算数・数学の勉強が好き」と答えた児童生徒の割合は6割前後であり、「算数・数学で学習したことを見直しを生活の中で活用できないか」と考えている児童・生徒の割合は小学校で6割、中学校で3割と低い結果であった。

こうした結果から、算数・数学を学ぶ意欲を育てる授業を創造するための取組が必要である。そのためには、学習し身に付けた知識・技能を、日常生活や他教科等の学習、より進んだ算数・数学の学習につなげて考える意義やその有用性を実感できるようにすることが大切である。

また、教師の一方的な講義等の授業ではなく、自ら考えるとともに児童生徒が互いに考え方を深める授業を目指す。更に、教師が相互に授業内容について日常的に交流するとともに、授業研究を活性化させることが大切である。

数学的な思考力・判断力・表現力の育成を

数学的な思考力や表現力を高めるためには、根拠を明らかにし筋道を立てて考えたり、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて自分の考えを表現したりする学習活動を充実させることが大切である。

算数的活動・数学的活動は、算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、数学的な思考力・表現力を高める上で、重要な役割を果たすものである。操作や体験のみならず、比べ、分類して考える活動を一層充実させることが大切である。

また、児童生徒が日常生活で遭遇するような場面を取り上げ、どのような数学的な意味があるのかを見いだすような工夫を意図的・計画的に行う。更に身の回りのいろいろな場面で算数・数学で学んだ内容と関連付けて考える経験をさせることが大切である。

更なる基礎的・基本的な知識・技能の定着を

数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能は、生活や学習の基盤となるものである。操作や体験を取り入れた実感的な理解、日常生活への活用を重視し、学年間や校種間での反復(スパイラル)など丁寧な繰り返し指導や学び直しの機会を設定することで、算数・数学のわかる楽しさ、できる喜びを実感させる。基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることと学習意欲の向上、数学的な思考力・表現力の育成を関連付けて考えることが大切である。

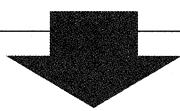
例えば、小学校の課題である、乗法・除法における関係の整理や立式、百分率を用いた問題解決などは、その後の中学校における学習内容と密接な関連がある。このような内容の指導には、小・中学校の教師がともに教材研究をし、公開授業を行うなど、9年間を見通した授業改善の取組が有効である。

4 算数・数学科の授業改善の提言

「算数的活動・数学的活動」の一層の充実を!

改善のポイント

- 基礎的・基本的な内容を系統的に身に付けさせることを重視すること。
- 知識・技能を活用する活動や課題を追究する活動を行うことにより、自ら学び自ら考える力を高めること。
- 算数・数学への関心・意欲を一層高めていくこと。



各学校での今後の取組・授業改善の一例

平成20年度全国学力・学習状況調査や京都府（基礎）学力診断テストの結果から、課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかめるように取組の一例を示した。課題は全領域から取り上げるのではなく、特に顕著なものに厳選して記述している。

授業改善を進めるに際して、指導の系統性を明らかにして、校種間連携の取組を推進するとともに、各学校における実態を踏まえた取組を進めていただきたい。

資料の見方

小学校算数B 数量関係

課題の背景

- 一つのグラフから情報を読み取る問題は、相当数の児童ができる。
- 京都府小学校基礎学力診断テストにおいては、数量関係で基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題が見られた。
- 他の考え方が正しいかどうか、複数のグラフや表などの情報を整理・選択して筋道立てて考え判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

複数のグラフからの情報の読み取りが十分ではない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ！

取組の一例

重点課題 複数のグラフから情報を読み取り、筋道立てて考え判断し、その理由を言葉や式を用いて記述すること。

授業を変えるポイント！ 既習事項を活用して、複数のグラフから必要な情報を読み取り、筋道立てて考え判断し、その理由を言葉や式を用いて書く。

例えば、このようないい授業改善を！

ひろしまんの末の賃差額について、ひろしまんは次のように言いました。

【小B2(3) 合正答率：18.2%】

ひろしまんの言っていることは正しいですか、正しくないですか。そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

【小B2(3) 合正答率：18.2%】

指導の系統性（新学習指導要領より）

- ☆算数的活動・数学的活動の蓄積
- ☆問題の考え方、式の表現、資料の整理とそれらの読みの充実

日常生活でヒストグラム、代表値などを利用する活動

【中学校1年】

身の回りから折れ線グラフなどを用いて表し調べる活動

【小学校4年】

目的に応じて円グラフや棒グラフなどを用いて表したり、特徴を調べたりする活動

【小学校5年】

身の回りから比例の表などを用いて問題を解決したりする活動

【小学校6年】

- 問題や誤答の特徴、京都府（基礎）学力診断テストとの関連など、課題の背景と考えられることを記述している。

- 「例えば、課題を克服するためにどのような指導をすることが大切か」など取組の一例を示している。

- 上記の取組の一例は、該当学年だけの指導内容ではなく、系統的なつながりを持っている。どのような系統性を持った指導内容なのか、キーワードで示している。

- 新しい学習指導要領を見据えて整理している。

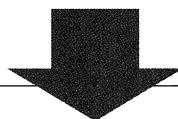
小学校算数A 量と測定

課題の背景

- 身の回りのものの面積を予想したり見当を付けたりすることに課題がある。
- 150cm^2 を「縦15cm×横10cm」の長方形の面積と考え、身近なものに関連付けてイメージすることや、「算数の教科書1冊の表紙の面積」、「教室1部屋のゆかの面積」などを見当付けることに課題がある。
- 過去の京都府小学校基礎学力診断テストや、昨年度の本調査において課題であった三角形や平行四辺形の面積の求め方については改善が見られるが、面積について実感を伴って理解することに課題がある。

量の大きさ（面積）についての感覚をもつことが十分でない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ！



取組の一例

重点課題

面積についての量感を身に付ける。

授業を変える ポイント！

身の回りのものの面積を予想してから測定したり、示された面積の図形をかいたりする算数的活動を取り入れる。

面積の基本的な単位の量（ $1\text{cm}^2, 1\text{m}^2$ ）の他、 100cm^2 や 100m^2 の大きさを実感させる算数的活動を取り入れる。

約 150cm^2 の面積のものを、下の1から4までの中から1つ選びましょう。

- 1 切手1枚の面積
- 2 年賀はがき1枚の面積
- 3 算数の教科書1冊の表紙の面積
- 4 教室1部屋のゆかの面積

【小A6(2)府正答率:17.9%】

身の回りにある正方形や長方形の面積を見当付けてから、実際に測定する活動を取り入れる。

示された面積について、その単位や既習の公式などを活用し、身の回りにある正方形や長方形に関連付ける。

面積に関して実際に図形をかく活動を重視する。

指導の系統性（新学習指導要領より）

量の大きさ
の比較

【小学校1年】

- ☆身近なものの面積を調べる活動を大切に！
- ☆量の大きさの見当を付ける活動を重視！
- ☆日常生活の中で量感を体感！

柱体や錐体及び
球の表面積・体積

【中学校1年】

量の単位と測定、
見当を付けて測定

【小学校2・3年】

面積の単位と
測定、面積
(正方形、長方形)

【小学校4年】

面積(三角形、平行四辺
形、ひし形、台形)
体積(立方体、直方体)

【小学校5年】

面積(円)
体積(角柱、円柱)

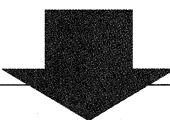
【小学校6年】

小学校算数B 図形、量と測定

課題の背景

- 全国平均を上回っているが、無解答率が高い。面積を比べる際、内角の和に着目していない児童も見受けられる。
- 京都府小学校基礎学力診断テストでは、問題の条件を整理して、筋道を立てて考えることや、既習のこととを発展的にとらえることに課題がある。
- 結論を導いた根拠を、言葉や式を用いて正しく記述できていなかったり、無解答であったりする割合が大きい。
前提条件である図形について長方形から四角形に変えた場面で、
図形の性質を基に、量の変化を適切にとらえることが十分でない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ！



取組の一例

重点課題

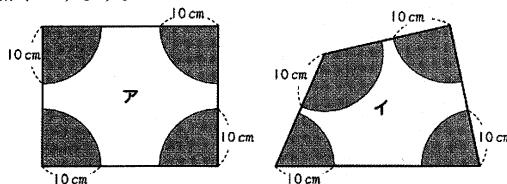
問題の条件を変えることにより、発展的、創造的に考える。

授業を変える ポイント！

問題の答えを出した後も、その前提の条件を変えることにより発展的、創造的に考える活動を取り入れる。

根拠を明確にして、考え方を説明したり、振り返ったりする活動を重視する。

(3) 長方形アと四角形イについて、下の図のように、頂点を中心に半径10cmの円の一部をかいて、黒くぬります。



長方形アの4つの黒い部分をあわせた面積と、四角形イの4つの黒い部分をあわせた面積を比べると、どのようなことが言えますか。下の1から3までの中から正しいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 4つの黒い部分をあわせた面積は、長方形アの方が大きい。
- 2 4つの黒い部分をあわせた面積は、同じになる。
- 3 4つの黒い部分をあわせた面積は、四角形イの方が大きい。

長方形アの内角の和と、四角形イの内角の和とを比較する。

内角の和と面積の和とを関連付けて考え、その理由(わけ)を筋道を立てて説明する。

【小B3(3) 府正答率:36.8%】

指導の系統性(新学習指導要領より)

☆前提条件を変えるなど発展的に問題をとらえる！

☆判断の根拠を明らかにして表現する！

☆算数・数学的活動を重視！

柱体や錐体及び球の表面積・体積

【中学校1年】

面積の単位と測定
正方形、長方形の面積の求め方
角の大きさの単位

【小学校4年】

三角形、平行四辺形、ひし形、
台形の面積の求め方 円周率
図形の性質(内角の和)

【小学校5年】

角柱、円柱の体積の
求め方
円の面積の求め方

【小学校6年】

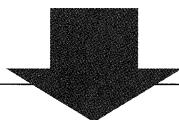
小学校算数B 数量関係

課題の背景

- 一つのグラフから情報を読み取る問題は、相当数の児童ができている。
- 京都府小学校基礎学力診断テストにおいては、数量関係で基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題が見られた。
- 他者の考え方が正しいかどうか、複数のグラフや表などの情報を整理・選択して筋道を立てて考え方判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

複数のグラフからの情報の読み取りが十分ではない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

重点課題 複数のグラフから情報を読み取り、筋道を立てて考える。

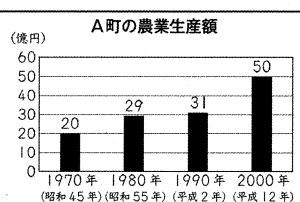
授業を変える ポイント!

既習事項を活用して、筋道を立てて考え、言葉、数、式、図、表、グラフなどを使って説明する活動を重視する。

一つのグラフだけでなく、複数のグラフからの情報を読み取り、関連付けて考える学習指導の充実を図る。

A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは次のように言いました。

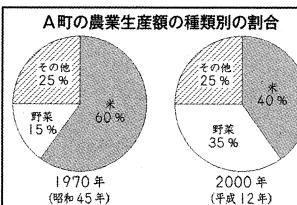
米の割合が、60%から40%に減っているから、
米の生産額は、減っています。



目的に応じて、複数のグラフから必要な情報を読み取り関連付ける。

ひろしさんの言っていることは正しいですか、正しくないですか。そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

【小B2(3) 府正答率:18.2%】



百分率の意味について理解し、それを用いることができる。

指導の系統性(新学習指導要領より)

- ☆算数的活動・数学的活動の重視
- ☆関数の考え方、式の表現、資料の整理とそれらの読みの充実

日常生活でヒストグラム、代表値などを利用する活動

【中学校1年】

身の回りから、折れ線グラフなどを用いて表し、調べる活動

【小学校4年】

目的に応じて円グラフや帯グラフなどを用いて表したり、特徴を調べたりする活動

【小学校5年】

身の回りから、比例の表などを用いて問題を解決したりする活動

【小学校6年】

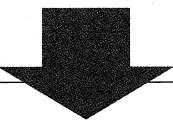
中学校数学A 図形

課題の背景

- 対称の中心を理解した点対称な図形の作図に課題がある。
- 線対称な図形を作図した生徒が4割近くあり、対称な図形を線対称とイメージする生徒が多い。
- 過去の京都府中学校学力診断テスト（対称に関する問題）では、問題の難易度にもよるが正答率は6割以上の正答率である。

観察や操作を通じた点対称な図形が理解できていない。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ！



取組の一例

重点課題 点対称の意味や性質を理解する。

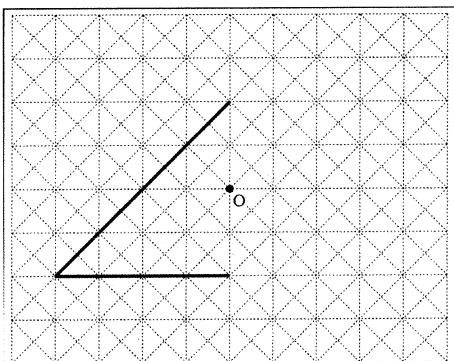
授業を変える ポイント！

文字や身の回りにある図形に着目し、点対称な図形と線対称な図形

を対比して理解を確かなものにする。

図形の移動を踏まえた数学的活動を設定する。

下の図は、点Oを対称の中心とする点対称な図形の一部です。この対称な図形を、解答用紙の中の点線（……）を利用して太線（—）で完成しなさい。



図やマークなどを用いて、点対称な図形、線対称な図形、点対称かつ線対称な図形であるものを弁別し、理解を深める。

点対称な図形、線対称な図形を作図し、点対称と線対称の違いに気付かせる（対称の中心と対称軸、等）。

点対称な図形は対称の中心を通る直線で、線対称な図形は対称軸で、合同な2つの図形に分けられるなどの性質に気付かせる。

【中A4(1) 府正答率:53.7%】

※ 点対称の内容は、平成21年度より小学校6年へ移行するため、小学校の指導においても参考にしてください。

指導の系統性（新学習指導要領より）

☆点対称の意味や性質の確実な理解！

☆数学的活動での操作と振り返り！

図形の合同

【中学校2年】

角の大きさ
平行四辺形、ひし形

【小学校4年】

図形の合同

【小学校5年】

対称な図形

【小学校6年】

図形の移動
基本の作図

【中学校1年】

中学校数学A 数量関係

課題の背景

- 正答率が全国平均と同様で4割に達していない。無解答率が2割を超える。
- 誤答については、比例や一次関数の式で表している解答類型が2割を超え、反比例の式を比例や一次関数の式と混同した生徒がいると考えられる。
- 過去の京都府中学校学力診断テスト及び昨年度の本調査の結果からも、反比例についての理解は十分であるとはいえない。
- 反比例については、比例の性質と対比させて、具体的な事象から反比例の性質を理解させることが大切である。

与えられた反比例のグラフから x と y の関係を式に表すことが不十分である。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

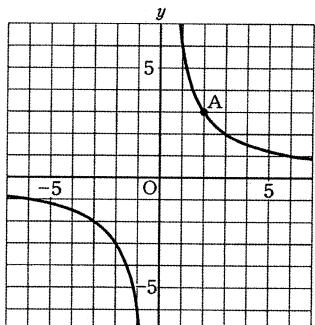
重点課題 表、式、グラフを関連付け、その特徴を理解する。

授業を変える ポイント!

具体的な事象において反比例の式にふれる活動を多く取り入れる。
表、式、グラフを関連付ける活動を取り入れる。

比例と対比して、反比例の理解を深めるとともに、一次関数の学習において、変化の割合が一定でない例として反比例を扱う。

このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。



グラフの特徴から反比例であることを判断する。

【誤答例】

- $y = 6x$ など比例の式を解答 (15.2%)
- $y = x + 6$ など一次関数の式を解答 (10.6%)
- 無解答 (23.6%)

y が x に反比例するとき、 $y = \frac{a}{x}$ の式で表すことができることを理解する。

表、式、グラフを相互に関連付け、比例と反比例の特徴を対比して言葉で説明する。

【中A11(2)府正答率:36.0%】

指導の系統性(新学習指導要領より)

- ☆表、式、グラフを相互に関連付ける。
- ☆具体的な事象の中に関数関係を見いだし説明する。
- ☆学び直しの機会を設定する。

二次関数

【高等学校】

文字を用いた式
比例と反比例

【小学校6年】

正の数・負の数、文字の式

比例、反比例

【中学校1年】

一次関数

【中学校2年】

関数 $y=ax^2$

【中学校3年】

中学校数学B 数と式

課題の背景

- 式の変形はできているが、性質の説明について不十分な生徒が約 $\frac{1}{2}$ である。
 - 過去の京都府中学校学力診断テストにおいても、性質の説明が不十分であり、無解答率が高い。
 - 「何について説明するのか」など、題意の把握に課題がある。
- 説明の見通し** (結論を導くための筋道) がもてず、説明の表現が不十分である。

課題を具体的にとらえ、授業改善の手がかりをつかむ!



取組の一例

重点課題 数学的な思考力・表現力を育成する。

授業を変える ポイント!

具体的な例を通して予想し、考察する活動を重視する。
数や図形に関する性質などについて、説明する表現の指導を充実する。(「～は、・・・になる（である）。」など)

- ② 直樹さんは、2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の和がどんな数になるかを考えています。

(2) 直樹さんの予想が正しいことの説明を完成しなさい。

説明
2けたの自然数の十の位の数を x 、一の位の数を y とすると、
2けたの自然数は、 $10x + y$
十の位の数と一の位の数を入れかえた数は、 $10y + x$
と表される。
したがって、それらの和は、
$$(10x + y) + (10y + x) =$$

具体例から事柄を帰納的に見いだしたり、その予想を説明し、伝え合う機会を設定することが大切である。

説明の書き方について、手本などを示し、徐々にその表現に慣れる活動(写す、穴埋め、大きな枠など段階を踏まえて)を行う。

【中B2(2) 府正答率:35.6%】

指導の系統性(新学習指導要領より)

- ☆算数的活動から数学的活動へ
- ☆帰納的、類推的、演繹的、発展的、統合的などの考え方を育成

算数的活動

- * 具体物を用いて数量や図形についての意味を理解する活動
- * 知識・技能を実際の場面で活用する活動
- * 問題解決の方法を考え説明する活動 など

【小学校】

数学的活動

- * 数学を生み出す活動
- * 数学を利用する活動
- * 数学的に伝え合う活動
- * 数学的に実感する活動 など

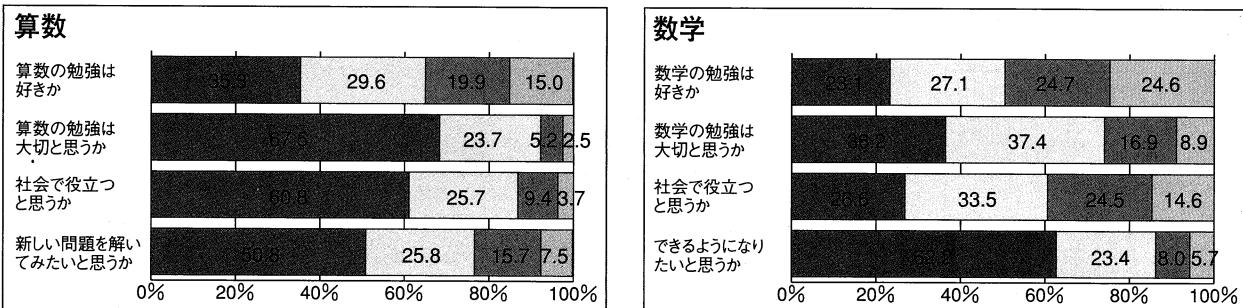
【中学校】

5 質問紙調査から見える算数・数学の課題

① 興味・関心、学習意欲等に関する課題

- 「算数・数学が好き」と思っている児童生徒の割合は、算数約65%、数学約50%と低いが、「社会で役立つ」と思う割合は、算数約87%、数学約60%とやや高く、「大切」と思う割合は、算数約91%、数学約74%と高い。この傾向は、小・中学校共通であるが、いずれの質問項目も、算数に比べて数学で割合が低くなっている。
- 「新しい問題を解いてみたい」と思っている児童の割合（算数のみの質問）は、約77%で、「大切」、「役立つ」と思う割合よりはやや低い傾向にある。
- 「できるようになりたい」と思っている生徒の割合（数学のみの質問）は、約86%と高く、「好き」と思う割合との差が大きい。

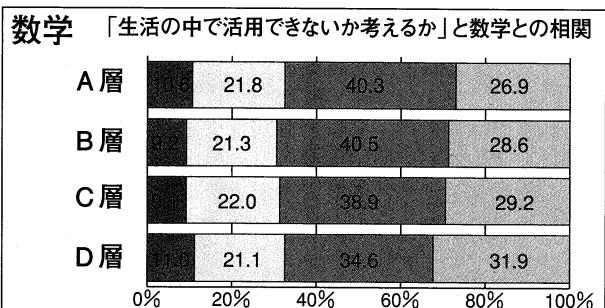
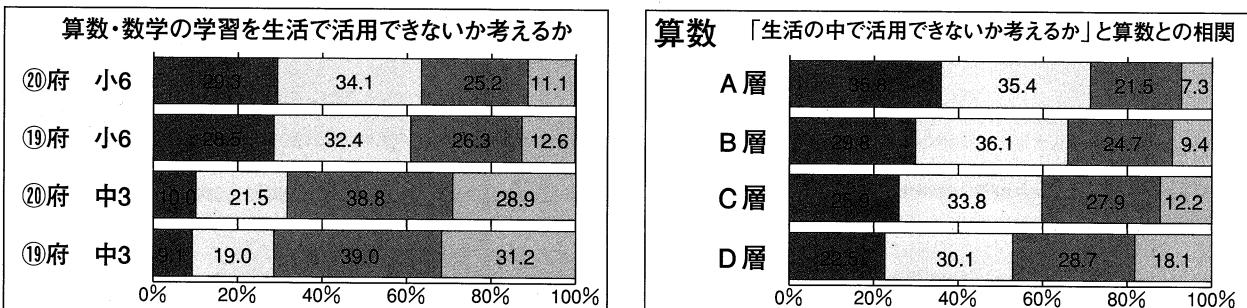
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



② 活用に関する課題

- 「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」児童生徒の割合は、算数では約63%であるが、数学では約32%と大変低い。ただし、昨年度の本調査と比べると、いずれもやや高くなっている。
- 算数では正答率の高い児童ほど生活への活用を考える割合が高いが、数学では正答率に関係なく割合が約32%以下と低い。学習したことを生活と結び付けることに課題があり、小学校から中学校への系統的な指導が求められる。

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

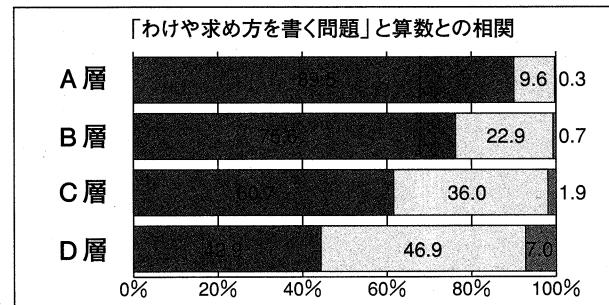
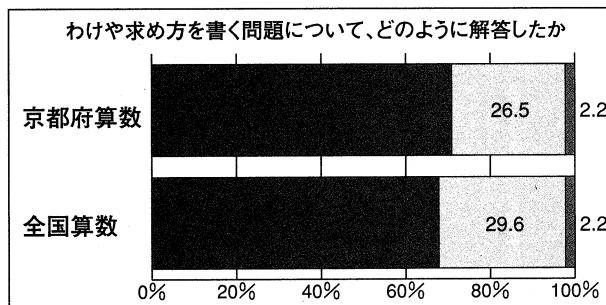


③ 学習方法に関する課題

- 算数において、「言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題」で最後まで解答を書こうと努力した割合は約70%で、全国より約3ポイント高く、正答率の高い児童ほど最後まで努力する割合が高い。しかし、正答率によって、努力する割合に大きな開きがあることが課題である。

最後まで努力した 途中であきらめた 全く解答しなかった

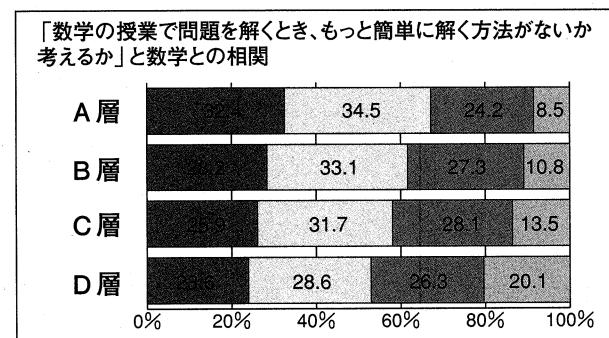
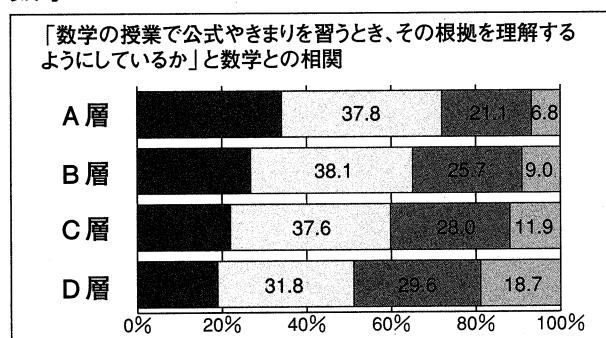
算数



- 数学において、正答率が高い生徒ほど、根拠を理解して公式やきまりを学習したり、簡単に解く方法を考えて問題を解いたりする割合が高い。

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

数学



指導方法改善の視点

- ① 発達や学年の段階に応じた反復や算数的活動・数学的活動の充実により、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、わかる喜びを実感させることにより、「大切」や「できるようになりたい」という思いを、「好き」という気持ちや「解いてみたい」という意欲に結び付けることが重要である。また、小・中学校の指導の系統性を十分に踏まえ、学習の円滑な接続を図るとともに、算数・数学を楽しいと感じるような工夫が求められる。
- ② 算数的活動・数学的活動を通して目的意識を持って主体的に取り組み、学習し身に付いたものを、日常生活や他教科等の学習、より進んだ算数・数学の学習へ活用することにより、算数・数学のよさや学ぶことの意義、有用性を実感できるようにすることが大切である。
- ③ 数学的な思考力・表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示すことが求められる。そこで、根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したりすることなどの算数的活動・数学的活動を充実することが大切である。

VI 児童・生徒の学習環境・ 生活習慣

1 質問紙から見える課題と改善の方策

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査をテーマごとに整理し、その中から「府としての課題」「取組の重点化を図る必要があるもの」を5つに絞り、それらの結果を全国の状況や昨年の結果と比較したり、教科の結果や質問どうしを関連させたりして分析した。学力の基盤として子どもの生活習慣や学習環境を見直すことは大変重要なことであり、各校、地域で更に分析し、学校における指導や家庭との連携、教育施策の充実・改善に生かしていただきたい。

①学習に対する関心・意欲・態度

- 国語の勉強が好き、または、どちらかといえば好きの割合は、小学校が52.8%、中学校で51.9%、算数・数学の勉強が好き、または、どちらかといえば好きの割合は、小学校が64.9%、中学校で50.2%であり、数学だけが昨年度より多くなっている。
- 読書習慣や新聞・テレビのニュースなどに対する関心が、学習意欲に影響していることから、引き続き学校や家庭、地域で読書活動や世の中の出来事に対する関心を高める取組を推進していく必要がある。
- 児童生徒の分かるようになりたいという思いを大切に授業改善を進めるとともに、少人数授業やチームティーチング等の京都式少人数教育を効果的に活用し、引き続き学習に対する関心・意欲・態度の向上を図る取組を進める。

②学習習慣

- 学校の授業以外で、全く勉強しない児童生徒の割合が、正答率の低い層では小学校1割、中学校2割程度いる。
- 基本的生活習慣の確立とともに、学習習慣の確立に向け家庭との連携を一層強化するとともに、小学校入学前から中学卒業までを視野に入れ定着に向けた取組を推進する。
- 粘り強さや達成感を持たせるような取組を学級経営や部活動、行事など様々な活動の中で、意図的に計画し、体験させる必要がある。

③基本的生活習慣

- 朝食をとることや学校を持って行くものの準備等、基本的生活習慣に関わる質問の間に関係が見られることや、生活習慣が学習時間等の学習習慣に及ぼす影響が見られる。
- テレビゲームや携帯電話の使用頻度が生活習慣や学習習慣に影響を及ぼしていることも見られる。
- これらのことから、家庭との連携を一層強化するとともに、「親のための応援塾」「まなびアドバイザー」等の事業を有効に活用していく。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を推進していく。

④家庭でのコミュニケーション

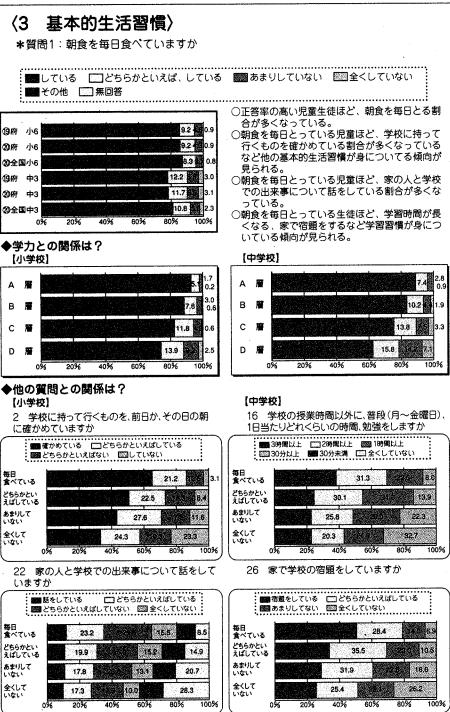
核家族化や都市化の進行といった社会やライフスタイルの変容を背景に、家庭や地域の教育力が低下していると指摘されている。また、子どもたちの学習意欲や生活習慣、自信などの個人差について個人差が広がっている背景には、家庭をはじめ子どもたちを取り巻く環境の在り方が影響を及ぼしていると考えられる。

- 子どもたちが、世の中の出来事に関心をもったり、自分の気持ちを素直に表現することや、相手に対する思いやりの気持ちを身につけるためには、家庭内での会話を深めることが大切である。
- また、保護者も子どもの学習や生活に関心を持ち、話を聞いたり励ましたりするなどの、心の通い合いに努めることが重要である。

⑤自尊意識

- 自尊意識と学習意欲や規範意識、社会性に関わる質問との間に関係が見られる。
- 自尊意識とは、自分への過信や自分勝手を許容するものではなく、「認められてうれしかった」「役に立てて良かった」「必要とされている」といった感覚を持つことから生まれてくるものである。
- 特に他者との関わりを通して感じ取る「自己有用感」を持たせることは、豊かな人間性や社会性の育成につながる。自然体験や社会体験を通して、地域の人々や異年齢の子どもたちと交流する場を積極的に持つことが求められる。

2 資料の見方



※以下の構成を原則としています。

（見出しと分析結果）

- どの設問に基づいた分析かを表示し、結果として読み取れることを文で示しています。

【上段グラフ：全国や昨年との比較】

- 京都府の状況と全国の状況を割合で比較して帯グラフで表しています。

【中段グラフ：学習状況との関連】

- その設問と4層（人数比率により25%刻みで、4つの層分けを行っている。上位からA層、B層、C層、D層）に分けた学力状況との関連を表しています。

【下段グラフ：設問どうしの関連】

- 関連した質問を選び多面的に状況が分か るようクロス集計しています。

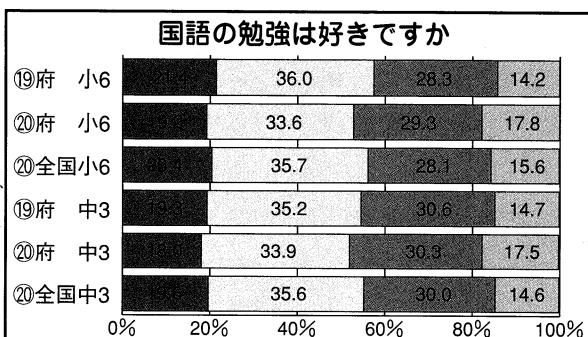
3 質問紙調査の結果

① 学習に対する関心・意欲・態度

*質問50：国語の勉強は好きですか

*質問61：算数・数学の勉強は好きですか

- | | | |
|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 当てはまる | <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまる | <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまらない |
| <input type="checkbox"/> 当てはまらない | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 無回答 |



○正答率の高い児童生徒ほど、国語、算数・数学の勉強が好きな割合は多くなっている。

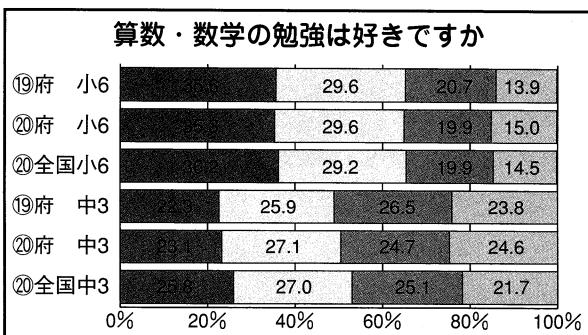
○読書が好き、新聞などのニュースに対する関心がある児童ほど、国語の勉強が好きな割合は多くなる。

○授業で自分の思いや考えを書くことが多いと答えている生徒ほど、国語の勉強が好きな割合は多くなる。

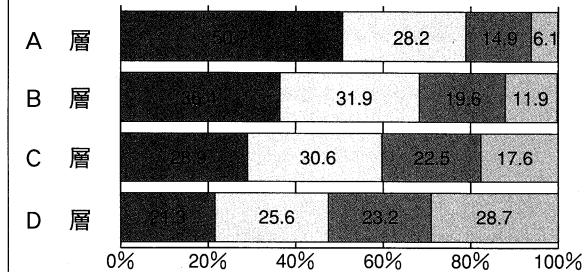
○数学が好きではないと答えた生徒も、70%以上は、数学ができるようになりたいと思っている。

◆学力との関係は？

【小学校】



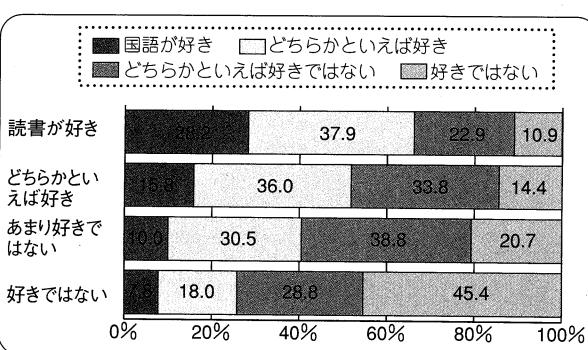
算数の勉強は好きですか



◆他の質問との関係は？

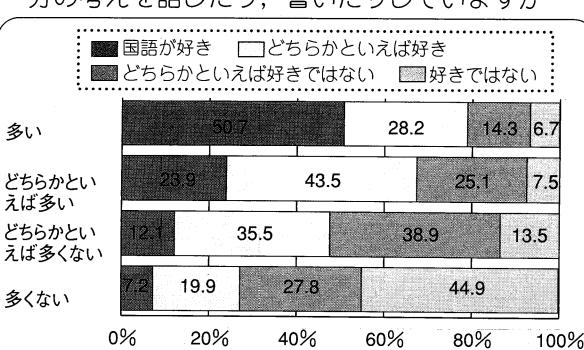
【小学校】

53 読書は好きですか

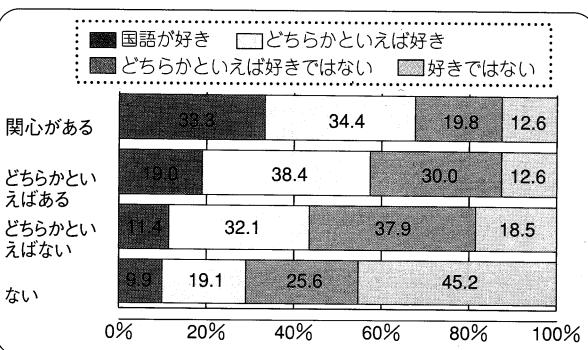


【中学校】

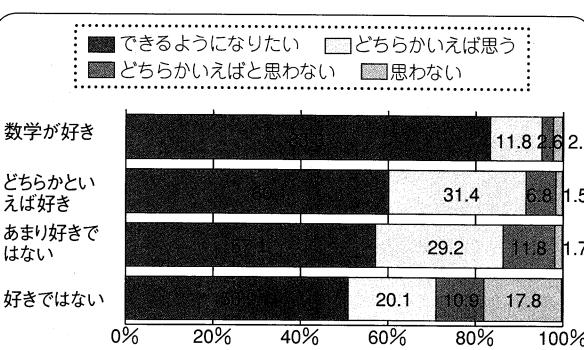
56 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



31 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



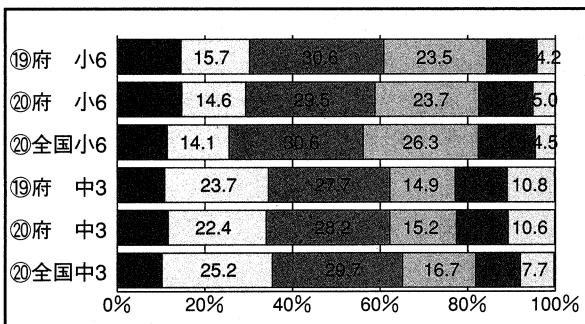
64 数学ができるようになりたいと思いますか



② 学習習慣

*質問16：学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか

- | | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| 3時間以上 | 2時間以上 | 1時間以上 | 30分以上 |
| 30分より少ない | 全くしない | その他 | 無回答 |



○正答率の高い児童生徒ほど、学習時間は長くなっている。

○TVの視聴時間が長くなるほど、学習時間が短くなっている。

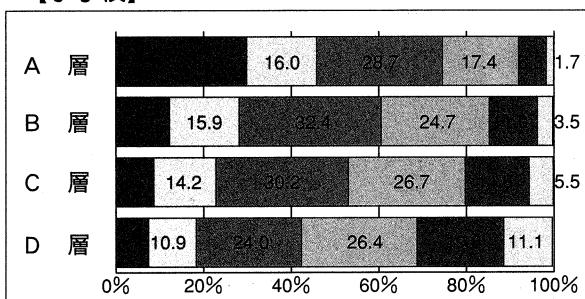
○新聞などのニュースに対する関心がある児童ほど、学習時間が長くなっている。

○宿題をしない生徒ほど、学校の授業以外の学習時間が全くない生徒の割合が、多くなっている。

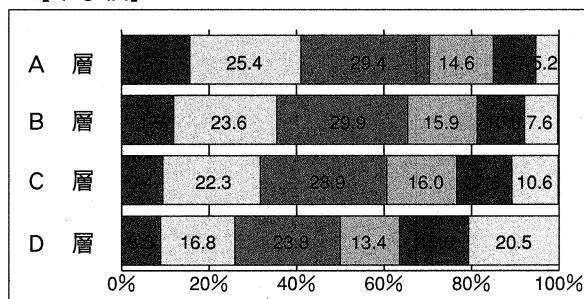
○物事を最後までやり遂げて嬉しかった経験がある生徒ほど、学習時間が長くなっている。

◆学力との関係は？

【小学校】



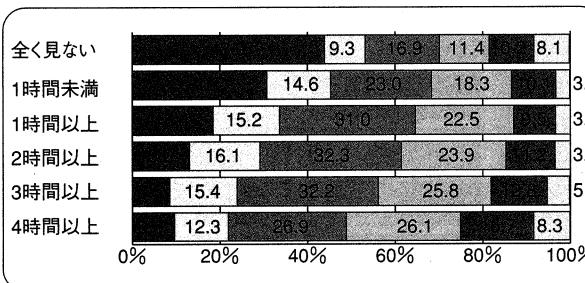
【中学校】



◆他の質問との関係は？

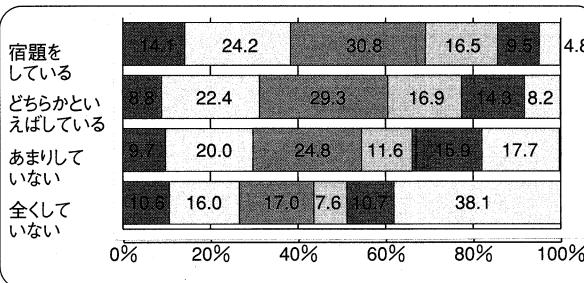
【小学校】

12 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

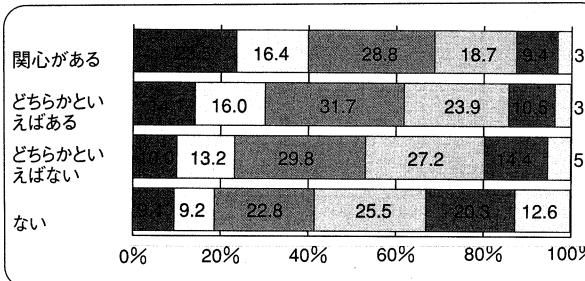


【中学校】

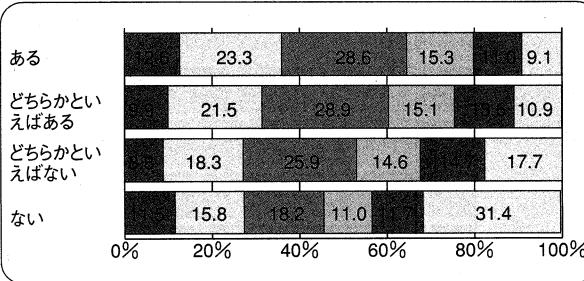
26 家で学校の宿題をしていますか



31 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



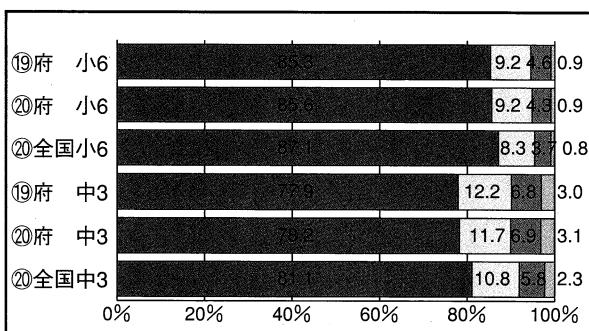
5 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



③ 基本的生活習慣

*質問1：朝食を毎日食べていますか

- | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> している | <input type="checkbox"/> どちらかといえば、している | <input type="checkbox"/> あまりしていない | <input type="checkbox"/> 全くしていない |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 無回答 | | |



○正答率の高い児童生徒ほど、朝食を毎日とする割合が多くなっている。

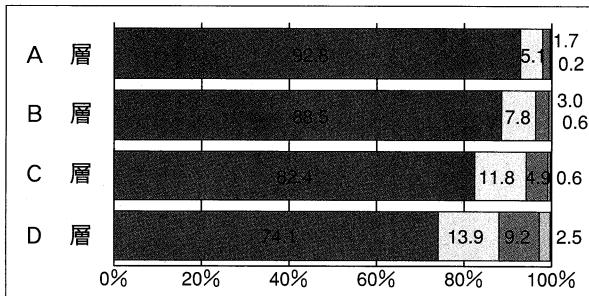
○朝食を毎日とっている児童ほど、学校を持って行くものを確かめている割合が多くなっているなど他の基本的生活習慣が身についてる傾向が見られる。

○朝食を毎日とっている児童ほど、家の人と学校での出来事について話をしている割合が多くなっている。

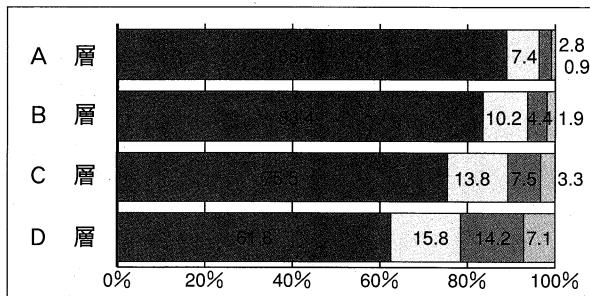
○朝食を毎日とっている生徒ほど、学習時間が長くなる、家で宿題をするなど学習習慣が身についている傾向が見られる。

◆学力との関係は？

【小学校】



【中学校】

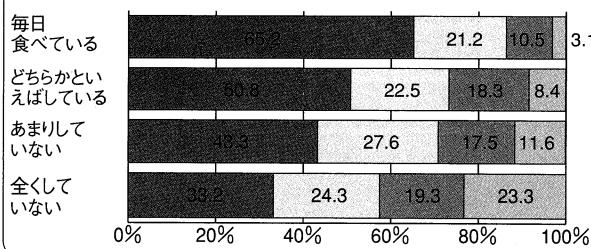


◆他の質問との関係は？

【小学校】

2 学校を持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

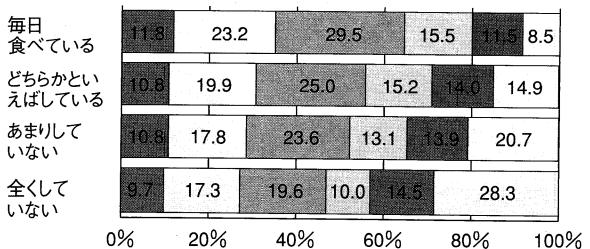
- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 確かめている | <input type="checkbox"/> どちらかといえばしている |
| <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえばしない | <input type="checkbox"/> していない |



【中学校】

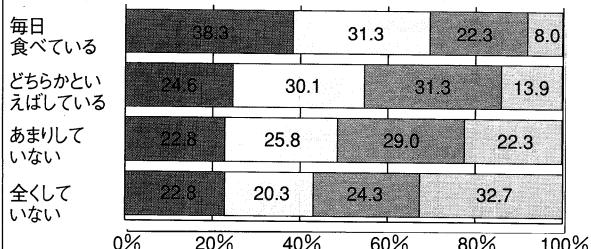
16 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

- | | | |
|---|--------------------------------|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 3時間以上 | <input type="checkbox"/> 2時間以上 | <input type="checkbox"/> 1時間以上 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 30分以上 | <input type="checkbox"/> 30分未満 | <input type="checkbox"/> 全くしていない |



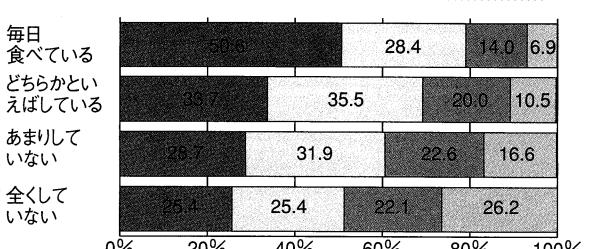
22 家の人と学校での出来事について話をしていますか

- | | |
|---|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 話をしている | <input type="checkbox"/> どちらかといえばしている |
| <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえばしていない | <input type="checkbox"/> 全くしていない |

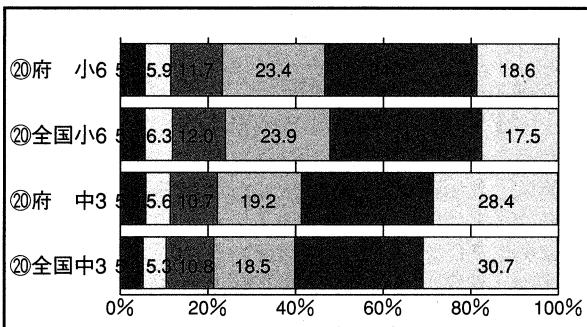
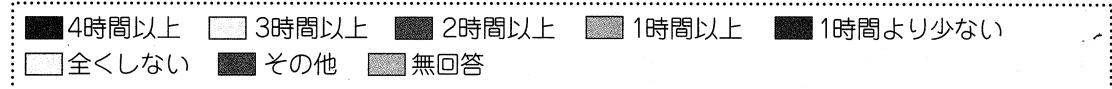


26 家で学校の宿題をしていますか

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 宿題をしている | <input type="checkbox"/> どちらかといえばしている |
| <input checked="" type="checkbox"/> あまりしていない | <input type="checkbox"/> 全くしていない |



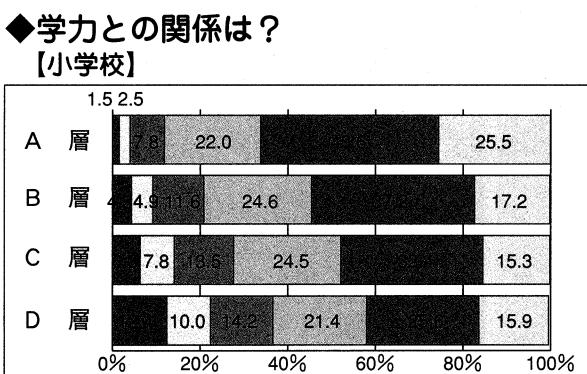
*質問13：普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか



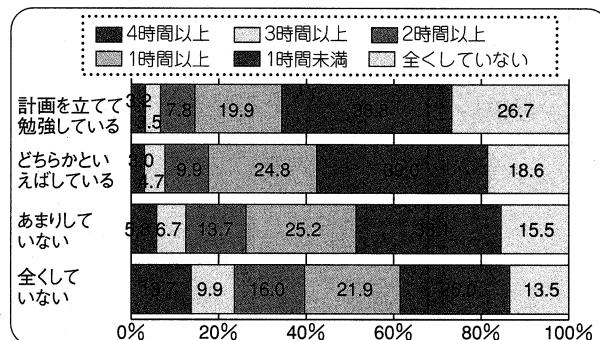
- 正答率の高い児童生徒ほど、テレビゲームをする時間が短くなっている。
- テレビゲームをする時間が短い児童ほど、家で自分で計画を立てて勉強している割合が多くなっている傾向が見られる。

◆他の質問との関係は？

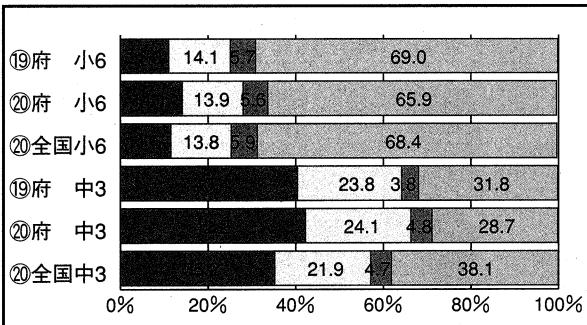
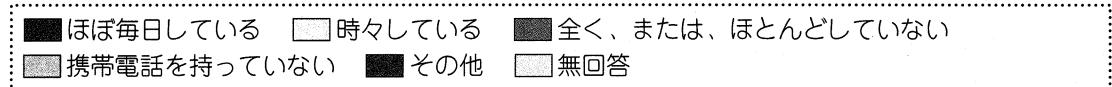
【小学校】



25 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



*質問15：携帯電話で通話やメールをしますか？

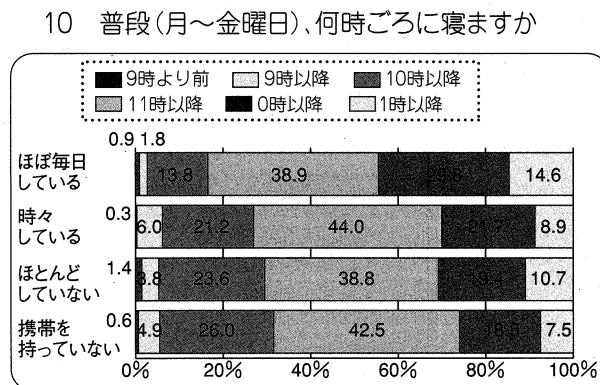
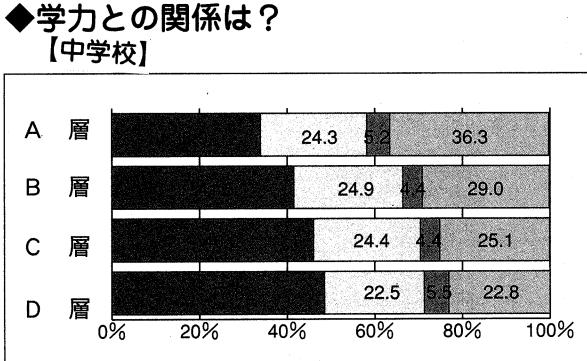


- 正答率の高い生徒ほど、携帯で通話やメールを毎日している割合が少ない。

- 携帯で通話やメールを毎日している生徒ほど、午前0時以降に寝る生徒の割合が多くなっている傾向が見られる。

◆他の質問との関係は？

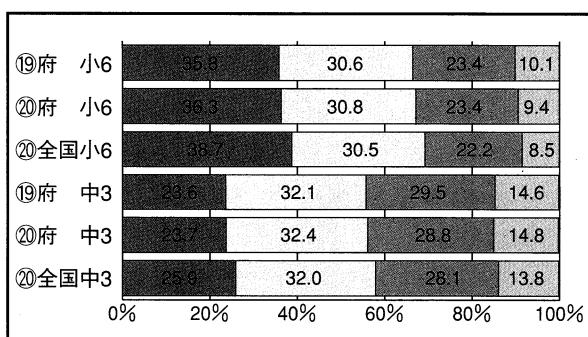
【中学校】



④ 家庭でのコミュニケーション

*質問22：家人と学校での出来事について話をしていますか

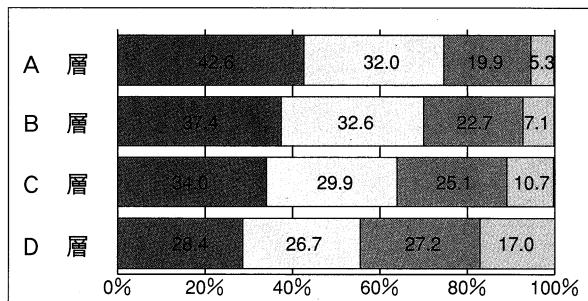
■している □どちらかといえば、している ■あまりしていない □全くしていない
 ■その他 □無回答



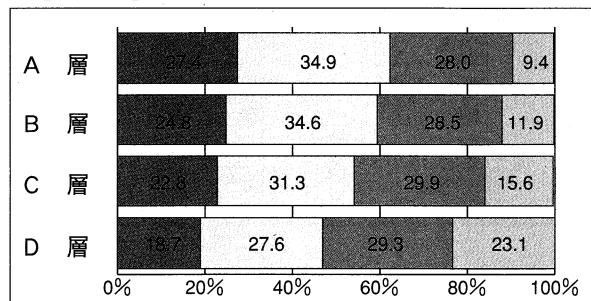
- 正答率の高い児童生徒ほど、家人と学校での出来事について話をする割合が多くなっている。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている児童は、計画的に勉強するなど学習意欲が高い傾向が見られる。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている生徒は、学習時間が長くなる傾向が見られる。
- 家庭でのコミュニケーションをよくしている児童生徒の方が、人の気持ちを思いやろうしたり、世の中の出来事について関心を持ったりする傾向が見られる。

◆学力との関係は？

[小学校]



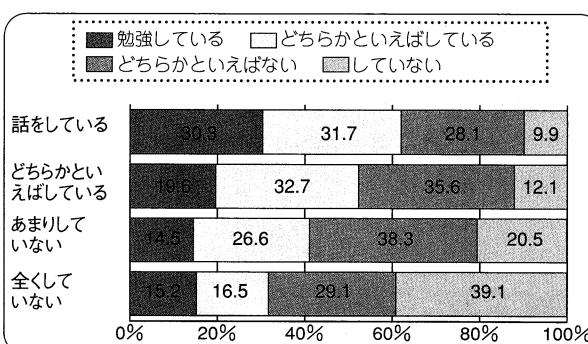
[中学校]



◆他の質問との関係は？

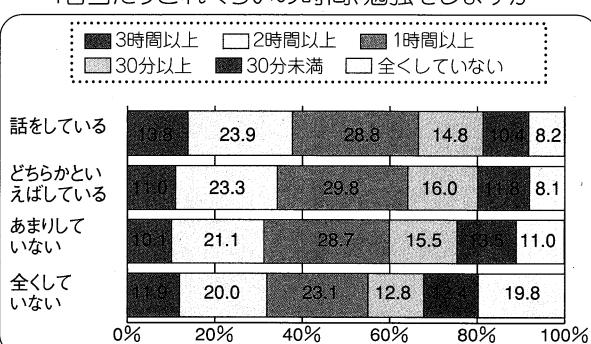
[小学校]

25 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

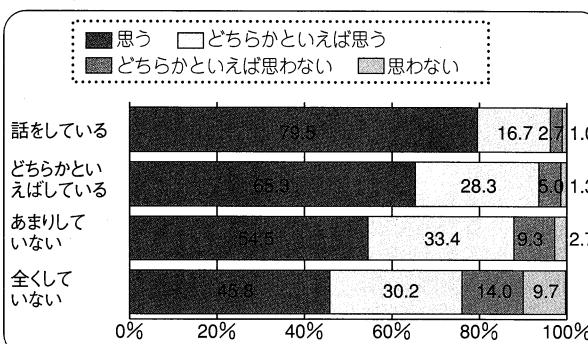


[中学校]

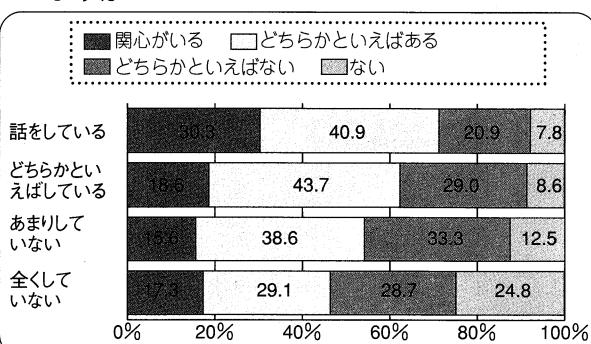
16 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



38 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



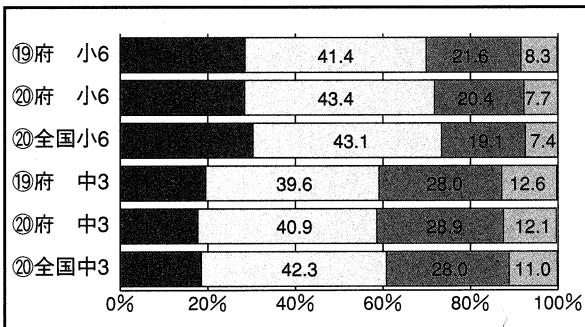
31 新聞やテレビのニュースなどに关心がありますか



⑤ 自尊意識

*質問7：自分にはよいところがあると思いますか

- 当てはまる □どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない
 ■当てはまらない ■その他 □無回答



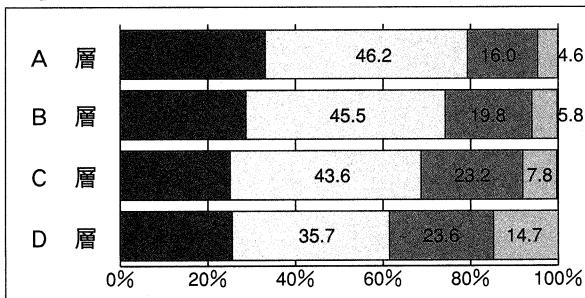
○正答率の高い児童生徒ほど、自分によいところがある・どちらかといえばあると答える割合が多くなっている。

○自分によいところがあると思う児童生徒は、学校の規則を守るといった規範意識や人の役に立ちたいといった社会性が高い傾向が見られる。

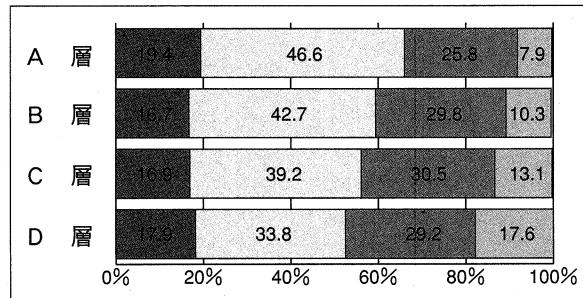
○自分によいところがあると思う児童生徒は、学校での出来事について話をするなど家庭でのコミュニケーションがあり、物事を最後までやり遂げた達成感を体験している傾向が見られる。

◆学力との関係は？

【小学校】



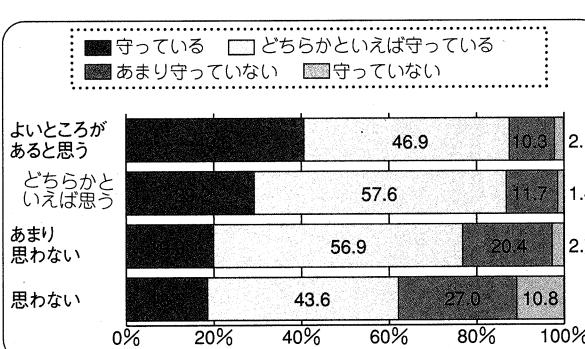
【中学校】



◆他の質問との関係は？

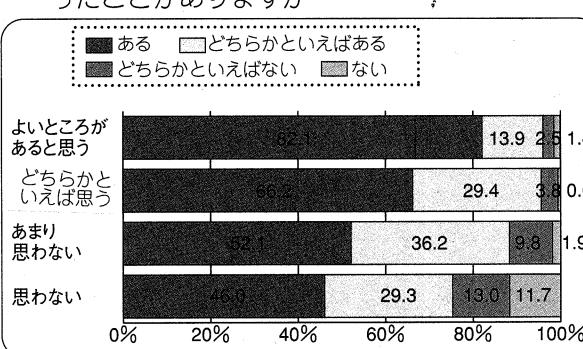
【小学校】

34 学校の規則を守っていますか

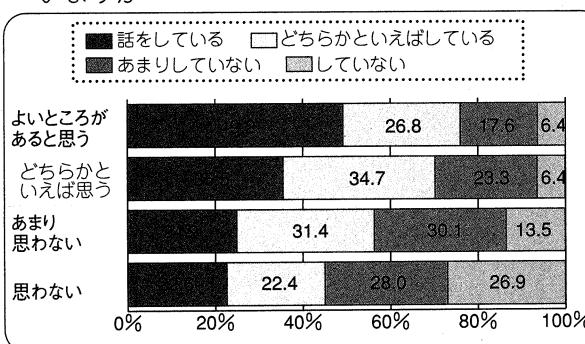


【中学校】

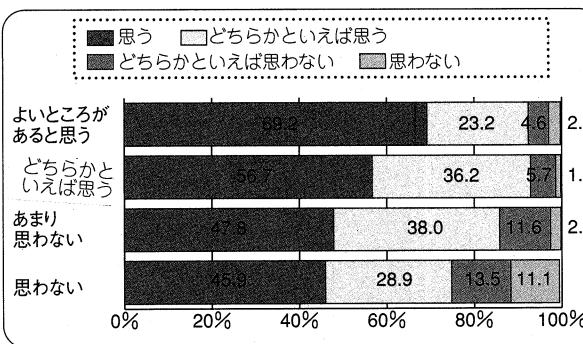
5 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



22 家の人と学校での出来事について話していますか



40 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



VII 資料編

資料 「提言（19年度版より再掲）」

1 学力について

中央教育審議会においては、学力の重要な要素を次の3点としてとらえている。※

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 学習意欲

これらの要素が統合された学力は、質の高い学力と言うことができるであろう。

今後学校は、これらの要素相互の関係性を意識し、全体を一体のものとして高めていくよう、授業改善や家庭・地域社会と連携した取組を推進することが重要である。

※ 平成20年1月に公表された、中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要項等の改善について」においては、改正教育基本法や、これを踏まえて改正（平成19年6月公布）された学校教育法第30条第2項等の規定をめぐって次のように述べられている。

「これらの規定は、その定義が常に議論されてきた学力の重要な要素は、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲、であることを明確に示すものである。」

この度実施された全国学力・学習状況調査は、「知識」に関するA問題と、「活用」に関するB問題を区別して出題し、併せて質問紙調査を行ったところであり、中央教育審議会の学力のとらえ方と調査の内容は良く符合している。

2 京都府の児童生徒の課題

- ① 「知識」に関する問題に対応する力はおおむね身に付いているが、「活用」に関する問題に対応する力については、更に身に付けさせる必要がある。この点は、全国的傾向と同様である。
- ② 学習環境や生活習慣については、「学習意欲」、「自尊意識」、「食習慣」、「家庭でのコミュニケーション」など、学力との相関が高い項目において、全国状況に比べてやや不十分な点が見られる。

3 取組の重点

- 引き続き基礎学力を重視しつつ、特に、知識・技能を活用して課題を解決するため必要な思考力・判断力・表現力等を伸ばすこと努める。

▷ 「活用」する学力を形成するためには、「知識」や「習得」の裏付けが必要。その際、単なる知識の詰め込みではなく「知識」の意味内容を豊かに「習得」するようにすることが重要である。また、「学び直し（知の洗練化）」や「まとめ直し（知の総合化）」といった指導を丁寧に組み立てるべきである。単にB問題のような問題形式に慣れさせるような試験対策では眞の意味での「活用」する学力は形成されない。

○ 目的意識や学ぶ意欲を培い学習習慣を確立するため、学校と家庭や地域社会が連携した取組を推進する。

- ▷ 質の高い学力には、質の高い学びが不可欠であり、目的意識や学習意欲に裏付けられた学習習慣を児童生徒の発達段階に応じてしっかり身に付けさせることが肝要である。そのために学校では、学習意欲を高める授業の工夫に努め、これと連動させて、家庭での学習・生活習慣の改善が進むよう、家庭や地域社会と連携した取組を更に推進することが必要である。

4 学校の取組

○ 継続的に広い視野で取り組む。

- ・ 学力・学習状況の課題に真正面から向き合い、単なる学力調査対応ではなく、中長期の視野で継続的に取り組むことが必要である。
- ・ 義務教育9年間を見通した学びの連続性や教科間の関連を確認するなど、広い視野で取り組むことが必要である。

○ 調査結果を十分に分析し、自校の教育を検証して改善に取り組む。

- ・ 小中学校の教員が、小学校中学校双方の調査問題を実際に解いてみることを出発点として、校内研修を活用して問題の分析を行い、問題内容や出題意図への理解を深めるなど、学校を挙げた授業改善に取り組むための共通基盤を形成する。
- ・ A問題・B問題別の平均正答数、平均正答率、中央値等の数値による分析の他、児童生徒の正答数の分布の形状等から全体的な状況を把握したり、領域別、観点別、問題(解答)形式別に誤答や無解答の状況を分析したりするなど、それぞれの状況に即し、多面的な分析を行い、自校の教育の成果と課題を検証する。
- ・ 学校単位の分析に基づき、京都式少人数教育の実施方法にも関連付けながら、カリキュラムや新たな評価方法の開発に取り組む。
- ・ 学級単位で、教材分析を踏まえた指導内容や指導方法の改善、評価方法の在り方、個別の児童生徒への対応などへの考察を深め実践する。
- ・ 質問紙調査については、全国や府の結果との比較や、学力との相関、調査項目相互の相関について、文部科学省や本資料が示した手法を参考にして、多面的に分析し、校内での取組や家庭や地域社会と連携した取組を推進する。
- ・ 府総合教育センターを始めとする研修・研究機関や教育研究団体等の有する機能や研究成果を活用する能力を高め、校内研修、研究活動、授業改善等を充実させる。

○ 全国学力・学習状況調査に係る検証改善サイクルを確立する。

- ・ 全国学力・学習状況調査に係る検証改善サイクルを、自校の学力向上プログラム（システム）の中に位置付けるなど、既存の取組との関連性を持たせて確立する。また、学校評価のプロセスで作成する学校経営計画にも適切に位置付けることが重要である。
- ・ 一つの単元レベルでの授業改善をサイクル化した取組を一層推進する。
- ・ 教職員一人一人の目標が、学校経営計画の目標と一致することによってこそ学校の組織的一体性が生まれ、学校経営は効果的に改善していく。教職員評価における「自己目標」の中に、学力の充実・向上に関連した目標が設定されることが重要である。

※一つの単元レベルでの授業改善サイクルのイメージ

- ①教材分析、②指導内容の明確化、③授業構想と指導と評価の計画、
- ④テスト（測定内容・方法）の作成、⑤授業展開、⑥児童生徒の自己評価、⑦テストの実施、
- ⑧テストの結果の分析と①～⑤の検証、⑨次なる改善

5 教育委員会の取組

京都府教育委員会では、市町村（組合）教育委員会や小中学校に対する総合的な支援策を、これまで以上に積極的に具体化することが必要であり、市町村（組合）教育委員会は、設置する学校共通の課題と個別の課題を明らかにしながら、学校の支援方策を検討することが必要である。

また、京都府教育委員会と市町村（組合）教育委員会が連携し、各教育局が所管する地方単位での広域的な取組を行う視点も重要である。

<教育委員会による学校支援>

- ・ 全国学力・学習状況調査、京都府の（基礎）学力診断テストの分析結果の周知を図ること。
- ・ 分析ツールの開発や分析のノウハウに関する資料の作成など各学校での分析の支援を行うこと。
- ・ 学校評価を軸にした学校経営改善や教職員の資質向上の取組を支援すること。
- ・ 指導内容や指導方法の改善・充実を図るために、実践交流会、フォーラム等を開催すること。
- ・ 本提言に示す質の高い学力を求めて、カリキュラムや評価方法などの研究開発を進め学校に普及すること。
- ・ 研究指定事業の在り方を見直し、学力の要素の個別又は全体の充実・向上に対応する研究を継続的に支援すること。
- ・ 府総合教育センターにおける研修講座、調査・研究活動、カリキュラムセンター等の充実を図ること。

- ・ 学力の充実・向上を目指す校内研修等に対して、府総合教育センターによる講座の出前や講師の派遣を推進すること。
- ・ 教科別の指導方法の工夫改善に係る実践事例や、評価方法の開発事例などを収録した資料を作成し普及すること。
- ・ 京都式少人数教育の充実など、指導方法や指導体制の充実を支援すること。

6 地域社会総がかりの取組へ

○ 学校と家庭や地域社会が連携した取組の推進

全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査とともに学習環境や生活習慣に関する質問紙調査が行われた。児童生徒の学力を向上させることは学校の責務とはいえ、目的意識や学ぶ意欲を培い学習習慣を確立することは、家庭での学習や地域社会での生活の在り方に大きくかかわっている。

したがって、学校と家庭や地域社会の連携を深め、地域社会総がかりの取組で子どもたちを育成していくことが大変重要である。

- ・ 学力向上についての自校の方針や具体的なプラン、実施結果などを家庭や地域社会に示し、それらに対する学校外部の声（評価）に耳を傾けることが求められる。このプロセスは、学校評価における学校関係者評価（外部評価）に適切に位置付けて取り組むこと。
- ・ 家庭教育の充実、地域の人材育成、地域づくり等の観点に立って、児童生徒の学力の充実・向上について、学校外部の方々と協議する機会を設けること。
- ・ 「まなびアドバイザー」、「京のまなび教室」、「親のための応援塾」などの事業を通じて、保護者や子どもたちの多様な状況やニーズを踏まえながら、学校と家庭、地域社会が連携した取組を一層推進すること。

○ 家庭への啓発と支援の推進

今回行われた質問紙調査の結果では、京都府の児童生徒の「食習慣」や「家族とのコミュニケーション」などの状況は、全国と比較してやや課題があると言える。これらの項目は、健康や体力、豊かな人間性の育成に関連することはもちろんであるが、いずれも学力と高い相関が見られることから、それらの状況の改善を図ることは、子どもたちの学力を向上させる上でも大変重要である。

これらの点は家庭生活そのものの要素であるので、それぞれの家庭において改めて実態を見直したり改善への意識が高められたりするよう、学校、PTA、地域団体、関係行政機関が連携し、啓発・支援することが強く望まれる。

【課題提起「『質の高い学力』を目指す授業と評価」について】

19年度の京の学力向上検討委員会作成の上記冊子は、中央教育審議会の答申を踏まえて作成されており、データの修正も特に必要がない記載になっていますので、引き続き活用してください。また、19年度版「学校改善支援プラン」も引き続き活用願います。

京都府が実施している主な学力充実・向上施策

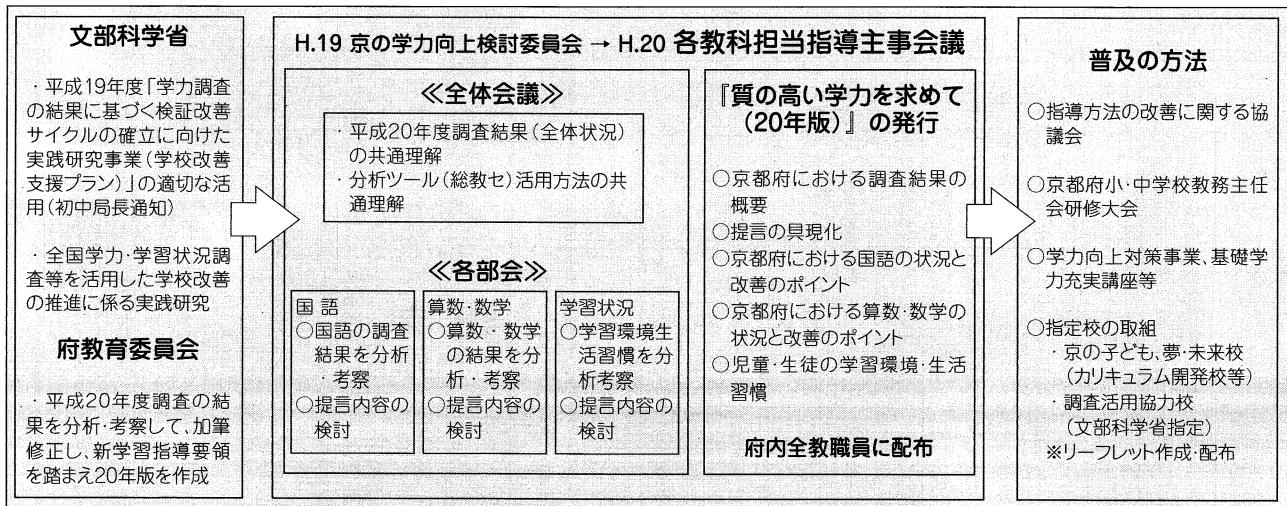
京都府独自の調査と分析 全国的な調査と分析 指導課題の洗い出しと施策	京都府学力診断テスト (平成③より小学4年・平成⑯より中学2年) 18年間に渡る調査・問題作成 京都府教育委員会……………局別学力向上対策会議 京都府総合教育センター……基礎学力充実講座 結果分析・課題把握 指導改善	
	全国学力・学習状況調査 (平成⑯より小学6年・中学3年) 京の学力向上検討委員会・担当指導主事会議で分析・考察 → 学校改善支援プラン「質の高い学力を求めて」	
	個人ごとの分析への対応	全体状況の分析への対応
	個に応じた指導(京都式少人数教育)	指導課題の解決(京の子ども、夢・未来校)
情報交換・成果普及の場	指導方法の改善に関する研究協議会 教育局別「学力向上対策会議」	教育課程京都府研究大会
その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国語力向上に関わる取組……1000万冊読書冊数登録システム、声に出して読もう!in京都 京の国語力向上プロジェクト ・学習・生活習慣等の改善……まなびアドバイザー、京の学び教室、親のための応援塾 	

全国学力・学習状況調査関連研究指定校(協議会の開催・リーフレット等の作成)

京の子ども、夢・未来校「カリキュラム開発校」 ※言語活動の充実、活用型の学力の育成 総合教育センターとの連携 15校【府教委指定】	全国学力・学習状況調査等を活用した 学校改善の推進に係る実践研究 ※学校改善支援プランをもとに研究 10校【文科省指定】	学力向上実践研究推進事業 ※フロンティアスクール・学力向上拠点 形成事業からの継続事業 6校【文科省指定】
--	---	--

学校改善支援プラン20年版の作成

- 平成20年度の調査結果を踏まえ、平成19年度学校改善支援プランのデータを更新
- 新学習指導要領を踏まえ、教科等の提言内容を改訂



【20年版「学校改善支援プラン」作成担当指導主事】

【国語】

学校教育課 辻村 敬三
乙訓教育局 北村 忠彦
山城教育局 渡邊 真弓
南丹教育局 末永 礼子
中丹教育局 村川 広美
丹後教育局 梅田 一美
総合教育センター 岩崎 俊之

総合教育センター 谷 寿賀子

【算数・数学】
学校教育課 本島 知樹
学校教育課 中西 次男
乙訓教育局 山本美由紀
山城教育局 森岡 康彰
南丹教育局 河村 泰宏

中丹教育局 長野代理子 中丹教育局 宮下 繁

丹後教育局 笠松 龍男
総合教育センター 畑中 悟
総合教育センター 南出 政隆
【学習状況】
学校教育課 竹尾 章彦

学校教育課 坂本 出 学校教育課 中田佳代子

学校教育課 藤川 敬之
学校教育課 日下部正登
【事務局】
学校教育課 大井 悟
学校教育課 山下 正己

学校改善支援プラン

— 質の高い学力を求めて —

平成20年12月

発行・編集 京都府教育委員会
京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
TEL 075-414-5833